

5. 長期調査員チーム報告

報告資料目次

1	総括報告	
2	長期調査員チームの派遣	
2.1	日誌	67
2.2	調査員チームの構成	76
2.3	中国側関係者	76
2.4	日本側関係者	77
2.5	関係機関の位置	78
2.6	分院見取り図	79
3	調査報告	
3.1	中国側準備状況	80
3.2	訓練場所の問題	81
3.3	身体障害者リハビリテーション	85
3.4	P.T.、O.Tの教育訓練	88
3.5	看護教育	90
3.6	宿舎及び移動方法	92
3.7	機材計画	93
4	協議議事録	

1. 総括報告

専門家チームとして1986年9月28日より10月11日まで中国を訪問し、関係部門の視察及び残疾人福利基金会代表団と技術協力の専門分野についての協議を行った。

中国側はリハビリ研究センターが国家五大事業に加えられ、強力に推進中であることを強調した。その総括報告は以下の如くである。

I 中国側の準備状況

1. 人事異動

劉 京 基金会国内部主任兼センター代理主任

繆 鴻石 センター代理副主任

センター建設を促進する目的で、暫定的人事と説明あり、

呉 弦光 センター分院院長

王 大覚 センター分院副院長

2. 諸設備

① リハビリ研究センター

1988年10月に完成見込で、工事関係者の増員を図り、ほぼ計画に従って進行していると説明あり、

病棟、医療棟、厨房、行政研究棟、エネルギー棟が地下工事施行中、職員宿舍棟は一棟が16階中11階までがコンクリート打ちが終了している、センター職員のプレハブ仕様の事務所や簡単なゲストハウスができ上がっている。

② センター第一分院

センターが開設される前に、職員のトレーニングを行う目的で、実習病院として用意した。

20床余りの病室、PT、OT訓練室が設置され、ここで急性期の脊髄損傷の手術を含む治療とリハビリテーションを行うことを予定している。

中国側はこの分院の企画に強い期待をかけ、本年11月には開院の予定である。機材類がほとんど未整備の点からも、日本側としては、中国側の自主性を損なうことなく、十分な協力体制をとることが必要である。

3. 看護婦、PT、OTの養成

中日友好病院には看護学生51名およびPT、OT学生41名が基金会より委託を受けて1985年9月より衛生学校に入学しており、いずれも1988年2月に卒業予定である。

学生の教育実習の場として衛生学校と友好病院の中国人用のリハビリテーション病棟、訓練棟が用意されているが、患者の種類、内容も含めて、整備が必要である。

II 中国側との協議事項

以上の視察調査の結果を踏まえ、リハビリ研究センター副主任繆鴻石を代表団団長とする中国側専門家チームと、協力の枠組と内容について協議した。

日本側は、JICAより次の事項を伝え、これに基づき以下の技術協力の各項目を協議検討した。

1. 協力の原則

- ① リハビリテーション研究センター開設以前の技術協力は中日友好病院で行う。ただし必要がある場合はセンター第一分院で若干の実習を行うことはあり得る。
- ② 日本側の供与した機材は、原則として中日友好病院で使用される。ただし、必要ある場合、一部は第一分院で使用されることもあり得る。また、センター開設後は、これらの機材はセンターに移されるものとする。

日本側は、技術協力の効果を上げるためにも、分院での技術訓練が、重要であることが十分に理解できたので、この原則内で、中国側により準備された場所に於て、できるだけ技術協力を行うこととした旨表明した。

2. 教育訓練に対する協力

① 医師の研修

医科大学卒業後の医師に対する卒後教育として、主としてセンターに勤務する者40名を対象として、六カ月の研修が三回、計120名が予定されている。全て日本側の講師を要請しており、希望するカリキュラムが提示された。センター開設前の二回の研修教育は中日友好病院で、センター開設後一回がセンター内で行うことを希望している。

第一回目の開始を1987年2月と希望しているので、早急な人選が必要である。

② PT, OTの教育

中日友好病院衛生学校に委託教育中のPT, OTの学生41名を対象として1987年9月より卒業までの六カ月間の卒前教育と、引き続き六カ月間の卒後教育の依頼を受けた。

③ 看護婦教育

同上において委託教育中の看護学生51名の卒業に引き続き、1988年3月より三カ月間の卒後教育の依頼を受けた。

III 技術指導

1. センター開設後の技術指導

当初、中国側は、分院およびリハビリ研究センターでの技術指導を要望した。

技術指導として医師、看護婦、PT, OT, 補装具製作士、管理専門職の6名を一組とする派遣団を、2カ月間を1単位として年2回、JICAの援助期間中を希望したが、この派遣は、センター開設後より開始することとし、派遣専門職を含め、人数、期間について

ても今後検討することとした。

IV 研修員受入

中国側は、1986年より年より年間5名程度の研修員の受入を日本側に要望した。一応5年間の予定を日本側に提示した。その職種は医師、補装具製作士、看護婦、PT、OT、管理職などである。具体的には、中国側の正式の要請に基づき、日本側が決定する。

V 機材供与

中国側は教育、実習の実施に必要な機材を要請した。また日本側からも、特に必要と思われる機材を提案した。

- 1 医療機材
- 2 訓練機材
- 3 看護機材
- 4 視聴覚機材
- 5 図書

各部門の調整、教育計画、予算との関係などを勘案し、調査団帰国後日本側の予算の範囲内で関係機関と調整のうえ決定することを了承した。

中国では、まだ相当の機材が不足しており、また単純な消耗品ですら現地での調達は困難なものもあり、できるだけ要請に応え、センター開設前の効果を上げるようにしなければならない。

これら機材は、緊要性に差があるが、できるだけの援助が必要である。

VI 中国側のとるべき措置

プロジェクト技術協力に関して、両国政府間で決められた、一般的な中国側でとるべき措置以外の事項を申し入れ、中国側の同意を得た。

1. 教育訓練のための条件整備

中日友好病院、衛生学校、第一分院での実習の場の機材、患者、人材などの確保

2. 日本人専門家の待遇

住居については、リハビリ研究センターの開設前は中日友好病院内、または適当なホテルを使用する。

通勤、公務により移動するさいは、日本の技術協力により供与される車輛等を配慮する。

VII 関連事項

1. プロジェクト・コーディネーター

技術協力を円滑に行うため、専門家として配置することに中国側は了承した。

2. 免責事項

医療行為、医療事故はセンターが責任を負うことを表明した。

Ⅶ 問題点

以上、要約を述べたが、問題点は次のものである。その一部はR、D締結までに明確にしておかねばならない。

1. 友好病院と基金会との関係

両者の連絡や協調は必ずしも十分ではない、友好病院の教育、実習の場としての整備の実行を、確認しにくい。このことを厳格に行うと、内政干渉になりかねないが、このプロジェクトの基本にかかる問題であるので、可能な限り明確にしておく必要がある。

2. 第一分院の取扱

中国側は第一分院での技術訓練を非常に重要視している。日本側の技術協力でも、実際問題として、係わり合いをもたざるをえないことが多くなると考えられる。この点を明確にしておかなければ派遣者が大いに困惑することになる。

3. 派遣者の人数と機材

中国側の技術協力に対する期待は大きく、リハビリ研究センターが円滑に、ある程度の技術水準をもって運営されるためには、研修、教育、技術指導などに対して十分な人材と機材を送り込む必要がある。これが新しくできるリハビリ研究センターの成否を分けることになる。

2.1 日誌

月日	曜	内 容
9/28	日	13:00 成田集合 二瓶、河野、落合、鈴木、佐藤団員 (旅行代理店 小林氏他 2名手続き協力)
		15:00 成田発 (中国民航 926便)
以後北京時間		18:30 北京着 出迎え： 日本大使館足利書記官、JICA中国桑島所員 張景元氏、王淑蓉女史、馮学鋒氏 (通訳)
		20:00 到着 宿泊： 陶然賓館 (TAO RYAN HOTEL) 団員、JICAによる打合せ (スケジュール調整)
9/29	月	10:00 JICA 表敬 八島所長、桑島所員 ○ 八島所長より対応の基本的方針説明 ① 技協に伴う機材は、センター開設後分院閉鎖なら「引上げ」、継続の場合でも「引上げたい」との意向表示とする。 ② 派遣職員の住居問題は、十分に詰める。到着住まいの道を確保したいなら、その希望を出しても差支えない。 ○ 二瓶団長より以下について打診、所長の了解を得る。 ① 日中友好病院のしかるべきモデルを会議に参画させること ② 研修終了後の障害者の受皿について不安あり、確認したい
		11:30 日本大使館表敬 島中公使、足利書記官 二瓶団長より訪中目的及び加外での現況説明

月 日	曜	内 容
		足利書記官より便宜供与の方針と重要会議参加の意向を受ける。
		12:30 桑島所員他JICA職員より本加ジカに関する実情聴取 (於 建国飯店)
		14:00 基金会表敬
		八島所長、桑島所員、団員
		中国側： 王魯光氏、穆鴻石氏、余淑華女史、蔣立才氏(友好病院)他
		○ 八島所長より専門家技術協力の基本方針説明、中国側了承(詳細協議 議事録)
		15:30 川研究センター現地視察
		中国側： 劉京氏、穆鴻石氏、吳弦光氏、張景元氏、王大覚氏、余淑華女 女史、王淑茗女史他
		○ 工事の進捗状況(劉京氏説明)
		① 全体として順調、1期工事分の地下部分及び職員宿舎1棟(16階 建てのうち11階部分までのコンクリート打ち終了)
		② 1期工事分は88年10月頃には完成予定の見通し、2期分について は予算確保に苦慮している
		③ 工事関係者は現在600人を使用、近く1000人にまで増員の予定
		④ センター職員は430人を確保し、最終的には660人とする
		⑤ その他
		・派遣する職員が居住する可能性のある職員宿舎は平均60㎡、 2～3LDK、商店街まで約1kmである。
		・職員宿舎隣にレストラン及び幼稚園を作る予定である。
9/30	火	10:30 日中友好病院視察(詳細は報告書関係部分に別記)
		中国側： 蔣立才氏(川部主任)、劉曉勤氏(衛生学校長代理)、侯玉珉 氏(外事処処長)、蔡福平氏(外事処)他
		日本側： 団員の他JICA桑島所員

月 日	曜	内 容
		○ 院内視察
		・ Ⅱ部門の整備状況及び臨床実習候補場所の状況確認
		・ 派遣職員宿泊設備の確認
		○ 衛生学校視察
		・ 学生の状況（ナース候補51人、PT候補41人）及び教育環境等の確認
		○ 教育・実習の条件等に関する討議
		・ 教育は主として衛生学校、実習は病院内 J棟 2F(Ⅱ科) 及び 4F (骨科：中国人用病棟)
		○ 関連機材に関する討議
		14:00 第一分院視察（所在地：北京市海淀区新街口外小西天）
		中国側： 繆鴻石氏、吳 弦光氏、王大覚氏、王淑茗女史、余淑華女史、 胡宝媛女史（吳弦光氏婦人；小児科医）、王菊人氏（建築主任 周延禎女史（外事主幹）他、 日本側：桑島所員
		日本側： 団員の他JICA桑島所員
		○ 地理的状況
		天安門の北西約 8km、新街口外大街沿いにあり、積水潭病院から 2 ～ 3 km程度である。
		○ 建物の状況（図面別掲）
		1500㎡程度の敷地に管理事務棟、機能回復訓練棟（PT、OT用体育館 式Ⅱ階造）及び病棟（40床分を20床用に改造、ナースステーション、倉庫等も 含む）が用意されているが若干の改造工事を要すると思われる。
		○ 王大覚氏の説明
		・ センターの役割の一つは急性期脊損のⅡを行うことであるが、未だ未經 験のものであり、他の病院でも手術はするがⅡまでは行っていないの が実情である。センター開設前に急性期脊損のⅡを経験し、必要な知識・ 技術を習得するために分院が必要である。
		・ 医師よりもむしろ熟練したPT、ナース等を得る必要がある。

月 日	曜	内 容
		<ul style="list-style-type: none"> • 育損関係は北京市内で年間 100件程度であり、うち頸損が60% 程度を占める。分院内の病室を使って手術をし、川までやってみたい。 • 敷設したX-7は妥当な角度に改造する。車椅子については患者個人に合ったものを用意すべきことは承知しているが、中国内では調達出来ない。特殊なものは日本に頼らざるを得ず、各種原形を提供願いたい。 • その他（省略）
		<p>18:30 日中友好病院立場現地調整員、JICA桑島所員より、友好病院の現状及び基金会（リサーチセンター）との関係等について事情聴取（大使館足利書記官同席）</p> <p style="text-align: right;">（於 北京飯店）</p>
10 / 1	水	<p>国慶節のため休日</p> <p>○「頤和園」参観</p> <p>中国側対応：王大覚氏夫妻、陳小梅女史（OT：昨年愛知医大にて研修）、趙吉凤氏（インテア：日本派遣予定者）、趙玉杰氏（義肢等技術者：日本派遣予定者）、馮学鋒氏（通訳）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 中国側としては名所案内の他、上記日本派遣予定者を紹介することによって特にその日本語会話力をを見てほしいとのことであった。 <p>上記二者は上海で日本語教育を受けたとのことであるが、日常会話は可能という程度である。</p>
10 / 2	木	<p>国慶節のため休日</p> <p>○「長城」、「定陵」参観</p> <p>中国側対応：余淑华女史、于兌生氏（中医：日本派遣予定者）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 于氏の日本語会話は、専門用語の発音等を除けば研修に支障ないと言える。

月 日	曜	内 容
		20:00 ~ 調査団部内会議
		(1) 10/3よりの会議への対応と部内最終確認
		(2) JICA本部より調査団への連絡事項あり、部内再調整
		21:30 木村団員着
10 / 3	金	9:00 日中合同会議 (於 センター事務所)
		八島所長、桑島所員、団員
		中国側： 繆鴻石氏、呉弦光氏、王大覚氏、李全珠氏、余淑華女史
		蔣立才氏 (友好病院)、周杜氏 (周天健氏長男) 他
		(1) 八島所長より技協に関する原則的考え方の説明
		(2) 協議 (詳細は報告書関係部分に別記)
		・教育、実習の実施について (医師、PT・OT、ナース 以下同)
		・教育、実習の場について
		・教育、実習の実施に伴う機材について
		・おむつについて
		・日本人専門家の派遣及び中国側関係者の日本派遣について
		・その他
		15:00 合同会議
		(1) おむつについて (医師教育おむつ案を中国側提示)
		・教育総時間数
		・教育対象とされている医師
		・教育開始時期
		・その他 (言語治療教育の扱い等)
		(2) 午前合同会議のフォロー
		・友好病院での脊損患者の確保について
		・PT等の臨床実習の場の確保について
		・その他
		18:00 センター主催による歓迎宴 (於 センター)
		劉京氏、繆鴻石氏、呉弦光氏、王大覚氏他、 JICA 桑島所員出席

月 日	曜	内 容
10 / 4	土	9:00 団員による講義 中国側の要請により、センター職員約 50 名を対象に、以下の通り講義を実施
		① リハビリテーション 医学総論 (二瓶)
		② 理学療法 (鈴木)
		③ リハビリテーション 看護 (落合)
		④ リハビリテーション 心理学 (佐藤)
		⑤ 脊髄損傷のリハビリテーション (木村)
		⑥ 日本の福祉制度 (河野)
		13:30 「天壇公園」参観 中国側対応： 喬志垣氏、陳小梅女史、馮学鋒 氏
		18:00 基金会主催による晩宴 (於 和平門北京烤鸭店) 劉京氏、穆鴻石氏、王大覚氏他、八島所長、桑島所員出席
10 / 5	日	13:00 河野団員帰国
		15:00 蔣立才氏と会談 (1 回目) (於 陶然賓館) ・友好病院での教育、実習に関する事項について
		17:30 蔣立才氏と会談 (2 回目) (於 北京飯店) ・教育、実習に関する詳細事情聴取
10 / 6	月	9:00 専門分科会 (詳細は報告書関係部分に別記) (於 センター)
		○ Aグループ …… 臨床、看護 日本側： 二瓶、落合、佐藤 中国側： 王大覚氏、余淑華女史、金学源氏の他機材・看護関係職員
		○ Bグループ …… リハ (PT、OT) 日本側： 木村、鈴木 中国側： 穆鴻石氏、喬志垣氏、周延禎女史他
		* 機材は双方に係わるため、分科会終了後の合同会議とする。

月 日	曜	内 容
		14:00 合同会議 (於 センター)
		○ 分科会における調整事項の協議
		○ 機材に関する協議
		・中国側による医療、PT、OT関連機材 リストの提出
		・中国側による図書リスト の提出
		・日本側によるPT、OT図書、機材 リスト及び視聴覚機材案の提示
		・日本側より機材分類方式を提案
		18:00 議事録に関する打ち合わせ (於 建国飯店)
10 / 7	火	9:00 合同会議 (於 センター)
		○ 機材に関する協議
		・中国側より、日本側より提案した分類に基づく機材 リストの再提出
		・機材については、調査団帰国後、全体調整のうえ決定する旨双方確認
		○ その他懸案事項の確認及び処理
		・教育・研修の開始時期
		・現地調整員
		・日本人派遣専門家の処遇
		・その他
		14:00 調査団部内会議 (於 陶然賓館)
		○ 分担部分協議報告
		○ 議事録について
		○ 議事録原案作成
		17:00 基金会招待による京劇鑑賞
		中国側対応： 馮学鋒氏
		22:00 議事録原案作成

月 日	曜	内 容
10 / 8	水	10:00 JICA訪問 八島所長、桑島所員 ○ 議事録に関する調整及び確認
		14:30 中国側との協議 (於 センター) ○ 詳細事項確認 ① 機材 リストと今後の処理方針 ② 教育・研修に関する詳細 ③ 日本人専門家の派遣に関する詳細 ④ 日本への受け入れに関する事項 ⑤ 関係機関所在地確認 ○ 議事録日本文提示
10 / 9	木	9:00 中国側との協議 (於 センター) ○ 議事録日中翻訳文照合 (JICA 桑島所員) 足利書記官立会い ・ 議事録に関するスケジュール 12:00 大使館足利書記官への謝礼招待昼食 (於 世界の窓) 13:30 「故宮」参観 中国側対応： 陳小梅女史、張健氏、馮学鋒氏
10 / 10	金	10:00 JICAにて議事録修正 ・ JICA本部よりの修正申し入れに対処したもので、足利書記官同席 13:00 通訳、運転手への慰労招待昼食 (於 建国飯店) 14:00 八島所長、修正議事録を基金会へ持参のうえ再協議 14:00 福祉工場視察 (北京毛製品工場三露工場) 対応： 張虞生副所長 ・ 聴覚障害者を雇用して、主に化粧品を製造している工場である。

月日	曜	内 容
		18:00 議事録署名 (於 晋陽飯荘)
		日本側 …… 二瓶団長
		中国側 …… 樺濤石氏
		18:30 日本側主催答礼宴 (於 晋陽飯荘)
		< 出席者 >
		日本側 : 大使館田尻書記官、同足利書記官、JICA八島所長、同桑島所員
		中国側 : 金堅敏科技委官員、基金会李副秘書長、劉京氏、樺濤石氏 吳弦光氏、王大覺氏、張景元氏、余淑琴女史、周延禎女史他
10/11	土	12:00 JICAによる調査団招待昼食 桑島所員対応
		15:00 調査団帰国 (日本航空 782 便)

2.2 長期調査員チームの構成

団 長	二 瓶 隆 一	国立身体障害者リハビリテーションセンター病院診療部長
団 員	河 野 康 徳	厚生省社会局更生課身体障害者福祉専門官
同	木 村 哲 彦	国立身体障害者リハビリテーションセンター病院第一機能回復訓練部長
同	落 合 芙美子	国立身体障害者リハビリテーションセンター病院看護部長
同	鈴 木 正 彦	国立身体障害者リハビリテーションセンター病院主任理学療法士
同	佐 藤 忠	国立身体障害者リハビリテーションセンター管理部企画課情報係長

2.3 中国側関係者

(調査期間中面談または協議した主な関係者)

I 中国残疾人福利基金会及び中国肢体障害者康復中心

王 魯 光	基金会副理事長
劉 京	同 国内部主任兼康復中心代理主任
繆 鴻 石	康復中心主任
張 景 元	同 副主任
吳 茲 光	同 副主任
王 大 覺	同 臨床部主任
邵 振 華	同 医学工程処副所長
余 淑 華	同 护理部主任
張 楠	同 国際連絡組組長
周 延 禎	同 弁公室副主任
王 淑 茗	同 図書情報室主任
胡 宝 媛	同 医師
張 健	同 医師
喬 志 垣	同 医師
于 兌 生	同 医師
陳 小 梅	同 作業療法士
超 吉 凤	同 技術者

超	玉	杰	康復中心技術者
馮	学	鋒	同 弁公室員
蔣	立	才	リハビリテーション部主任
侯	玉	珉	外事処処長
葵	福	軍	外事処幹部
劉	曉	勤	衛生学校長代理
立	場	正 夫	現地調整員

III 中華人民共和国国家科学技術委員会

金	堅	敏	国際科技合作局官員
---	---	---	-----------

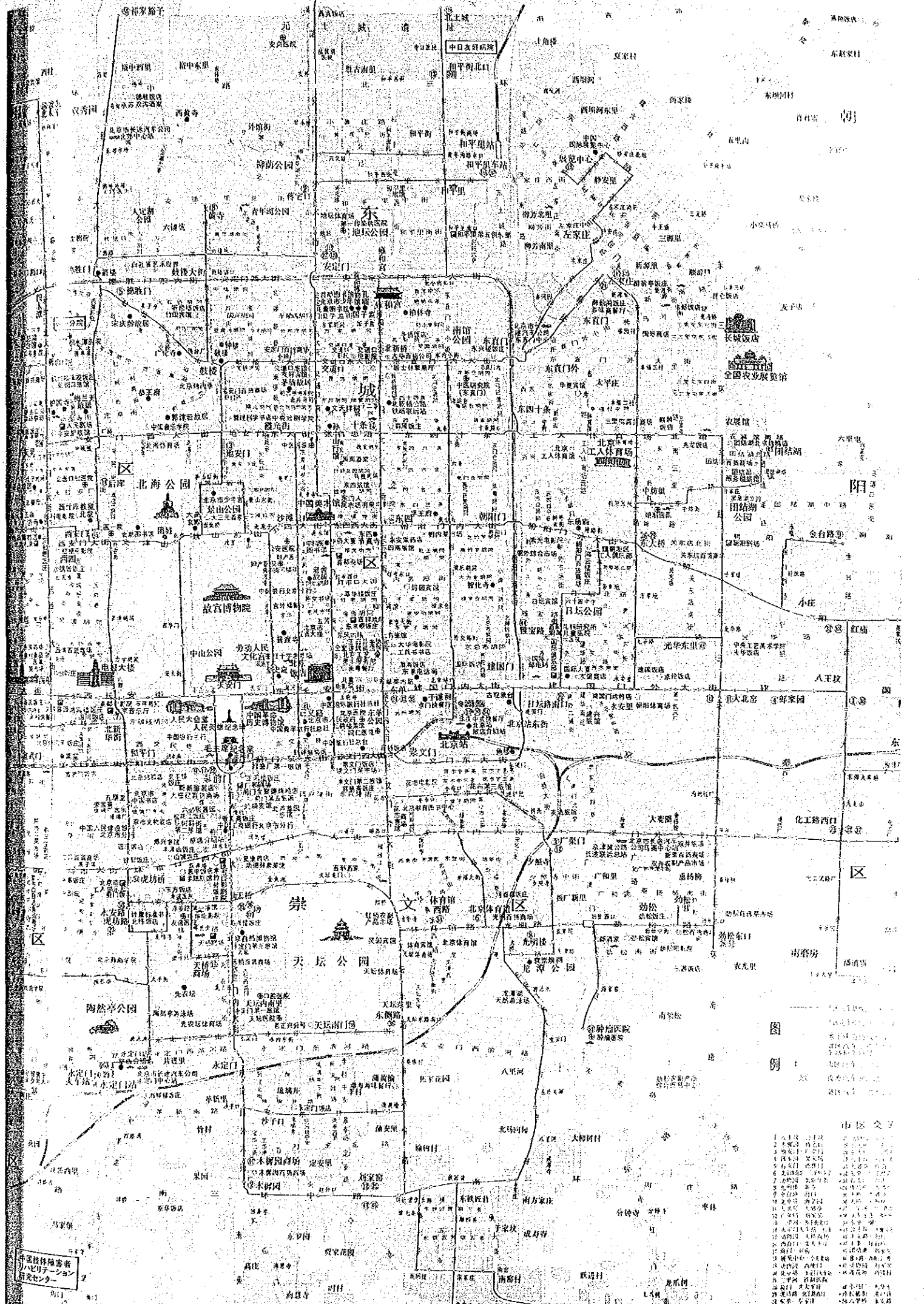
2.4 日本側関係者

I 日本大使館

足	利	聖 治	二等書記官
田	尻	和 宏	同

II 国際協力事業団

八	島	継 男	中国事務所所長
桑	島	京 子	同 所員

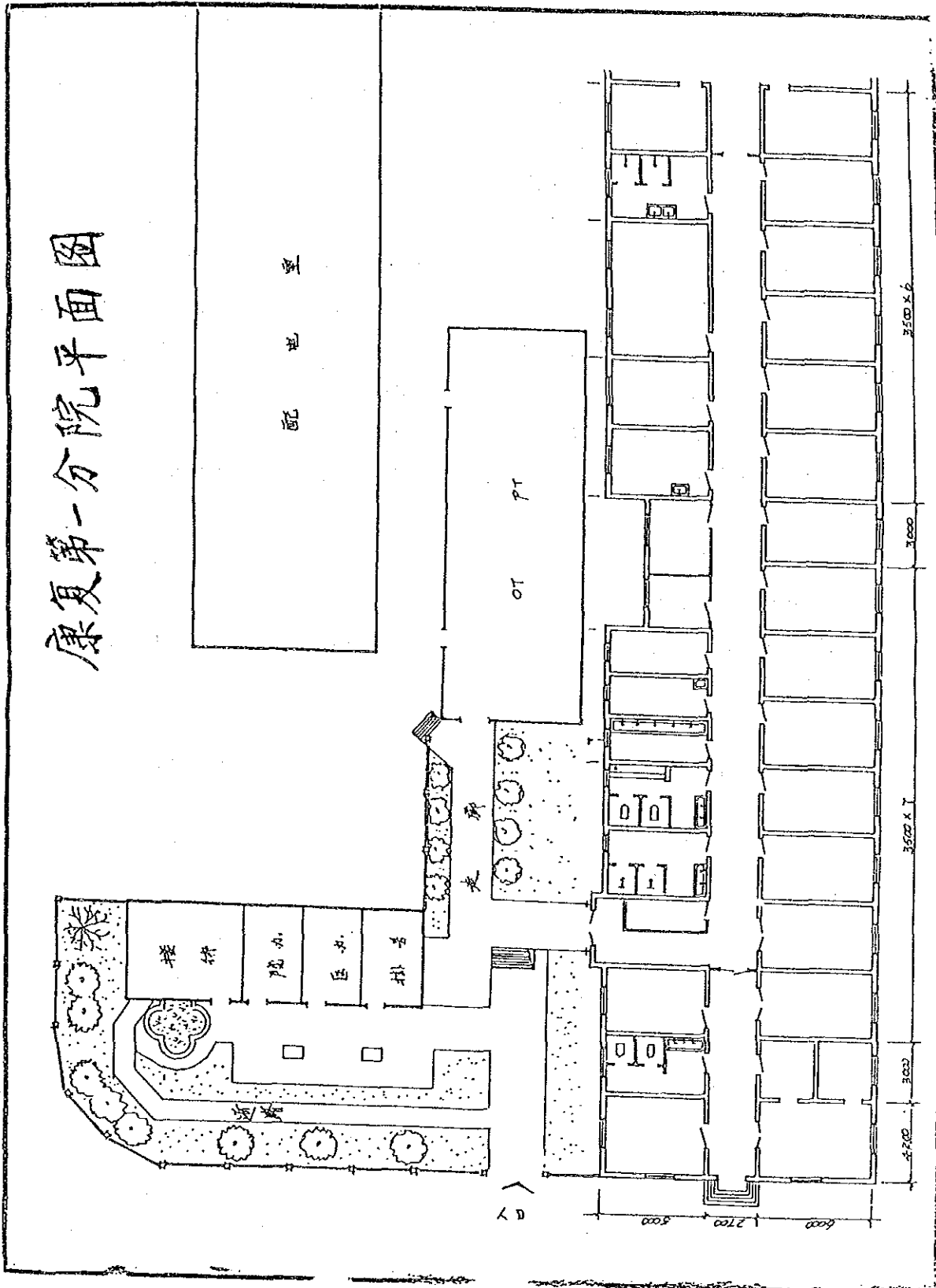


图例

图例	说明
1	一级公路
2	二级公路
3	三级公路
4	四级公路
5	城市快速路
6	城市主干路
7	城市次干路
8	城市支路
9	胡同
10	铁路
11	地铁
12	机场
13	港口
14	公园
15	名胜古迹
16	学校
17	医院
18	邮局
19	火车站
20	汽车站
21	码头
22	桥梁
23	隧道
24	水塔
25	变电站
26	加油站
27	公共厕所
28	电话亭
29	路灯
30	其他

中国残疾人康复研究中心
ハビリテーション
研究センター

2.6 分院見取り図



3. 調 査 報 告

3.1 中国側の準備状況

1 リハビリテーション研究センター準備状況

① 人事移動

劉 京	基金会国内部主任兼センター代理主任
繆 鴻 石	センター副主任
張 景 元	センター副主任
吳 弦 光	センター副主任

- ② 建設状況は全体として順調，第一期分の病棟，医療棟，厨房，行政科学研究棟，サービスエネルギー棟の地下部分ができ上がっている。職員宿舎は一棟が16階中12階までコンクリート打が終ってくる。
- ③ 工事関係者は現在600人を使用，近く1,000人まで増員予定
- ④ 第一期工事は1988年10月までには完成予定
- ⑤ センター職員用のプレハブ様の仮設事務所や簡単なゲストハウスも完成。
- ⑥ 本年9月より職員の研修を行っている。

2. 第一分院の準備状況

- ① 所在地 北京市海淀区新街口外小西天
- ② 地理的状況 天安門の北西約8kmの位置，積水潭病院から2～3km近さにある。
- ③ 院長 吳弦光，副院長 王大覚
- ④ 建物の状況は図面別掲
- ⑤ 管理事務棟，PT，OT訓練棟（一部補装具製作に使用）病棟20床余り，ナースステーション，倉庫を設置，車椅子のためには若干の改造が必要。
- ⑥ 急性期の脊髄損傷の手術をふくむ治療とリハビリテーションを行う予定。

3.2 訓練場所の問題

- (1) 中国肢体障害者リハビリテーション研究センタープロジェクトに関する技術協力の主たる目的が、センターの円滑な運営に資するための要員の養成にあることは言うまでもない。そのため、前回の事前調査において、専門家の派遣、研修員の受入れ及び機材供与についての基本的事項に合意したが、今回の調査の主たる目的は、前回合意した基本的事項にもとづく協力計画の確認であり、就中訓練場所の問題が一つのポイントであったと言えよう。

要員の養成には、訓練計画のみならず場所の選定が肝要である。そして、それらは相関関係にあるだけに、訓練場所の設定については、中国障害者福祉基金会においても相当の努力をしてきた経緯が窺える。

中国には国内の医療事務等、様々な問題が内在していると思われるが、それら諸事情をふまえ、基金会側が準備してきたのが分院構想であった。

- (2) 第1分院での臨床実習を重視する基金会側に対し日本側は、全ての技術協力の中心場所は中日友好病院としたいので、この方向で調整してほしい旨を、7月21日開催されたJICA本部での会議の席上、基金会劉京主任に申し入れていた。
- (3) これに対し、センターの繆鴻石主任が津山総長あて8月21日に提出してきた要望書は、調査団の訪中をひかえ、会談を順調に進めるための中国側の基本的考え方として、大要、次の諸点を明示し、従来の分院重視をより明確に提示していた。

① 中日友好病院での訓練

(中日友好病院を主とするも、条件不適の場合はセンターの第1分院で行う)

- ・対象—リハ医師，PT，OT，看護婦
- ・内容—リハ医学全般
- ・期間—センター開設前

② センター第1分院での訓練

- ・対象—医師，看護婦，PT，OT，義肢装具技術者，管理
- ・内容—脊髄損傷に関するリハの現場指導，技術交流
- ・期間—87年から5年間

③ 設備の供与

- ・中日友好病院及び第1分院における教育機材
- ・第1分院における臨床機材

④ 日本への派遣訓練

- ・各種リハ専門家の5名程度
- ・86年度中に第1陣，以後毎年派遣

(4) 予定される訓練場所の状況は、概略次の如くであった。

① 中日友好病院について

85年9月以来、PT、OT要員41名及び看護婦要員51名を衛生学校において養成研修にとり組んでいるが、これら衛生学校における養成研修に伴う臨床実習についてもその訓練場所の件に関しては、調査時点においても極めて不透明な回答しか得られなかった。

つまり、中日友好病院の代表として対応された侯玉珉外事処長及び衛生学校の劉曉勤校長からも確答は得られず、リハ部の蔣立才主任だけが実習場所設営の可能性に言及されるものの、基金会側は、そのことについての協議が整っていないことを否定的に繰り返すのみであった。

② 第1分院について

センターの分院構想については、前回調査時以降、基金会側の準備状況が次第に明らかにされてきていたが、今回調査において視察した第1分院の状況は概ね次の如くであった。

- ・所在地は、天安門から北北西約5kmに位置し、262軍病院の一部を有償で借り受け車いす障害者用に25床分を整備するとともにPT、OT訓練棟及び事務棟を新築したものである。分院としての着工は7月1日、開院は11月1日。
- ・分院開設の目的は、センター開設前に臨床、研修、研究の経験を積むべく、特に脊損者の急性期からリハへ移行する全過程の臨床実習を主眼とするもの。
- ・分院開設の理由は、脊損者のリハは重要問題であるにもかかわらず、他の病院では経験が乏しいため脊損者を受け止めないため。その事情は中日友好病院においても同様であり、急性期を経たのちの中、長期的リハに対応できるかどうかについて疑問がある。
- ・分院構想は将来的に拡大していく計画があり、とりあえず第1分院は軍病院を借り受けることとなったが、運営面は独立して行われる。但し、軍病院と共有するものもありうる。なお、中国では軍病院は対象者を軍関係者に限定しているのではなく、一般にも解放されている。

(5) 関係施設視察後の10月3日、合同会議に臨み、JICA北京事務所の八島所長が、JICA本部からの指示として次の点を基本的確認事項とすべきことを通告した。

- ① 訓練場所は、中日友好病院を中心としての教育、実習を行うことを原則とする。但し必要に応じ分院での若干の実習を行うことはありうる。
- ② 日本側の供与する機材で、センター開設前に中日友好病院及び分院に設備されるものは、センター完成後はセンターへ移されるものとする。但し、センター完成後において

も分院等に貸与されるものがあるとすれば、その点については日本側の関知するところでない。

(6) この原則論を承けた中国側の日本側への要望及び説明は、8月21日付の繆鴻石メモを前提として、中日友好病院における養成・訓練の内容等に一部の修正を申し出た以外は、終始、分院を訓練場所とすることについての必要性と、それに対する協力依頼を繰り返し強調された。

(7) これに対し、日本側は原則論を繰り返し提示し、中日友好病院における実習体制の整備を申し入れるに止まった。

この日本側の意向に対し、中国側は非常に複雑な問題であるとの反応を示しつつ、次のような問題指摘を行った。

- ① 日本側の提案は、中日友好病院自体の整備には役立っても、センター側の研修には効果の薄いこと。
- ② 仮に中日友好病院側に実習体制を整えても、センター等他の病院のために研修を行うには無理のあること。
- ③ 第1分院を軍病院とみることによる日本側の拒否であるとするならば、他の病院を分院とし実習の場とすることもありうるが、現状ではそのことにも種々の制約があつて、センター開設前の研修体制をとりにくい。
- ④ 現在計画中の第1分院では完全なリハチームをもつことができるが、中日友好病院で同様のリハチームをもつことができるかどうかには疑問がある。リハにとってチームワークの肝要なことはリハ医学の常識であるにもかかわらず、日本側がそのことを否定するのは理解に苦しむ。
- ⑤ 分院の要員を中日友好病院に派遣研修することを強行すれば、分院の運営自体が成立たなくなるがそのこと以前に中日友好病院自体がセンターのチームを受け入れることは困難である。
- ⑥ 結論的には、センターの今後の運営を円滑に進めるための最も効果的な方法は、日本の専門家が分院での臨床研修に直接、協力してくれることである。

(8) 以上が訓練場所の問題をめぐる経緯と今回調査時における協議のあらましであるが、協議議事録には、当初から日本側が通告した原則論で記録することを専らとし、中国側が終始要望した分院での研修にかかる事項(3)の②の問題)はネグレクトされた。しかしながら、このことは陰に陽に顕在化する要素をもつと思われるので、このことの問題点の端的に報告しておきたい。

(9) 技術協力に関与する我々が、リハを含む医療協力の基本として認識しなければならぬことは、クライアントの傷病原因を問わぬのが医療の鉄則であること、と思われる。まして

や、多くの国で、リハの発展経過においてベテラン対策が重要な位置を占めているのは通例であり、我が国も例外ではない。

今回のセンター計画に際し、基金会としては、中国内の医療事情からくる必然と中日友好病院における対応の困難性等からそれら諸事情をふまえ、中国側が最善の方策として出してきたのが分院構想であると思われる。

その第1分院がたまたま軍病院の一角を使用することをもって、“軍事”関連と解釈した原則論を立て、それを押し通さざるをえなかったところに、今回の調査のジレンマがあったが、このジレンマは、次のように敷衍されよう。

日本側がセンター開設前の第1分院での研修への協力を拒否したとしても、今後、多数の分院構想をもつセンターは、その先駆的役割をもつ性格からして、複数の軍病院とネットワークをとることが予想される。したがって、センターがベテランの診療及びリハに当たることは長期的に必然の成行きとなりうるが、それをしも、センターが日本の援助になる施設であることを理由に否定することが出来るであろうか。長期的には軍関係の使用を認めざるをえないとすれば、センターにとって最も重要な開設前の技術研修に準備した分院への技術協力を拒否することに、どれほどの意味があるであろうか。

なお、協力の原則において、第1分院における実習及び機材使用の必要性を認めつつも協力計画において、分院での研修協力に対する要望を無視したことが、訓練場所の問題以外に日本側専門家の協力体制にも起因するものがあるとするならばこの点についても将来に禍根を残さぬ対応が必要であると思われる。

センター開設後においても技術協力をを行うことを予定とするならば、開設前においても最善の努力を行うことが必要と思われるので、R/D調印までに慎重なる再検討を望みたい。

3.3 身体障害者リハビリテーション

(木村哲夫)

派遣先 : 中華人民共和国, 北京市, 中国肢体障害者リハビリテーション研究センター

目的 : 現在建設中の中国リハビリテーション・センターの要員教育のための施設, 機器, 材料の検討, 及び教育担当の人材確保とそのカリキュラム等についての打合せおよび確認の作業を行い, RD調印に際し支障無きよう双方の納得し得る資料の作成を行う。

日程 : 1986年(S61年)10月2日より10月11日まで, 先発5名(9月26日出発)と北京市にて合流した。

以下談合, 指導の内容について。その要約を報告する。

- 1) 教育講演会における講演
- 2) 専門医の教育
- 3) 中華人民共和国専門家の日本における研修の受入れ

I 教育講演内容

演題: 脊髄損傷のリハビリテーション

日本に於ける脊髄損傷リハビリテーション発達の歴史

- 1) 専門医師数と出身科別分類
- 2) 学会活動, 研究活動の推移
- 3) 損傷原因の国際比較
- 4) 脊髄損傷による死亡(致命率)の国際的推移と比較

脊髄損傷, 特に頸髄損傷リハビリテーション『所沢方式』の紹介

- 1) リハビリテーション看護プログラムの実際
- 2) PT, OTプログラムの時期的配分と平行訓練
- 3) 治療的スポーツのプログラムと意義
- 4) 泌尿器科的訓練とリハビリテーション
- 5) 保存的療法と手術的療法のリハビリテーション施行時に見られる差異

リハビリテーション・チームの運営

- 1) 各専門職の評価, その方法と意義
- 2) 評価回診(Assessment round)の重要性
- 3) CC(Clinical conference)における情報交換と社会的ゴールの設定および修正

以上の項目についてスライド・フィルムにより講演を行った。

(文責 木村)

*講演終了後, 教材に転用したい旨申し出が有り, コピー作製を許可した。

II 専門医師の教育

1987年3月より4月にかけて訪中した、本プロジェクト事前調査団による協議の段階では、

- ① 協力分野に、リハビリテーション医分野が含まれること
- ② 1986年より5年間継続すること
- ③ 双方で合意される計画に基づき、日本から専門家を派遣すること
- ④ 中国側で推薦する医師があれば、日本側で研修を行うこと（年間5名の研修総枠内）の4点のみであった。日本側からの派遣については上3点のみである。

協力計画を実施するにあたり、当面急務と考えられる具体的事項について、協議議事録署名前に行った各論的事前調査について報告するものであるが、実施場所として中国肢体障害者リハビリテーション研究センターが完成するまでの具体的な名称については、前回調査団の協議議事録には見当たらない。その後、中華人民共和国がわから付属第一分院を使用したい旨申し出があった。その他、中日友好病院衛生学校において教育・研修を行うことについて福利基金会と中日友好病院とで調印がなされたとの報告があった。

本調査団としては、日本出国時には第一分院に於ける実習を前提とする向きも有ったが、第一分院が、軍病院の施設を利用する前提で発足しているため、外務省より、JICAを通じて訓令がもたらされ、原則的に研修を行う場所には第一病院を含めないとの方針で交渉を行い、中日友好病院を中心に研修を考える事とした。

実行計画案

- 1) リハビリテーション研究センター完成まで、中日友好病院衛生学校において年間3回の研修コースを開設する。
- 2) 期間は概ね6月とし、初回は1987年2月に開始する。
- 3) 日本側講師は複数で担当する。
- 4) 教育内容については、中華人民共和国側より希望のあった項目、時間に日本側が修正を加えるものとする。
- 5) 教科書については、津山総長の翻訳中のものを使用したい。年内3冊送付すること。
- 6) 第一回目以外は開始の時期を日本側で決定する。
- 7) 第3回目の研修コースは、リハビリテーション研究センター完成後、同所に於いて行うものとする。

III 日本に於ける研修生受け入れ

前回、事前調査団訪中時に成された取り決めでは、5年間毎年5人の受け入れをし、その範囲についてはリハビリテーション医学分野（医師、PT、OT、ST、看護婦）、

補装具製作技術者，リハビリテーション工学，検査，管理，その他との結論に達している。

今回確認作業を行ったところ，下記のごとき結論に達した。

日本語試験が極めて困難で，程度が高く，9月末現在では次のごとき状態である。

初年度：医師3名1年以内，補装具製作者，リハビリテーション技術者各1名1年以内。

次年度：看

3年度：医師5名1年（PT，OT，ST担当医師を含む）。

4年度：リハビリテーション・システムおよびセンター管理5名6月。

終年度：医師5名1年（PT，OT，ST担当医師を含む）。

初年度分については既に決定し，日本側に送付済みであるとの報告があり，RD調印と同時に発効することとなる。

次年度以降については予定である。

日本に於ける研修計画については，可及的速やかに立案し受け入れに支障無きよう配慮するものであること。

以上双方で確認した。

3.4 P T . O T の教育訓練

(鈴 木 正 彦)

I 対 象

現在中国残疾人福利基金会が中日友好病院衛生学校に委託して教育を行っている P T ・ O T 学生 41 名が対象となる。

これら学生は、1985 年 9 月入学。2.5 年（ 5 学期 ）の教育期間のうち、第 3 学期在学中の学生である。男女比は約 3 : 1 である。

II 時期及び期間

1987 年 9 月から卒業までの 6 カ月間、及びそれに続く 6 カ月間。合計 1 年間を教育訓練期間とする。

III 実施場所

中日友好病院衛生学校・中日友好病院及びセンター第 1 分院に於いて実施する。なお実習教室および作業療法室を設置されるよう準備を要請した。

IV 教育内容

前半 6 カ月の卒業前教育は、講義および実技教育を中心として行い、後半 6 カ月の卒業教育は、臨床指導を中心に実施する。

教育科目は次の通りである

1. リハビリテーション総論

リハビリテーションの概念、リハビリテーション基礎理論、リハビリテーション医学の概念

2. 運動療法の基礎知識

3. リハビリテーション医学の治療方法

義肢、補装具、自助具、車いす、物理療法、運動療法、作業療法、言語療法、臨床心理療法、ソーシャルワーク、娯楽療法

4. 評価測定

筋力テスト、ROM テスト、ADL テスト、歩行分析、電気診断及び筋電図、神経学検査、整形外科検査、心肺機能検査

5. リハビリテーション エンジニアリング

6. 疾患別リハビリテーション治療

片まひ、対まひ、脳性まひ、切断、脳損傷の後遺症、関節炎及び関節疾患、神経筋疾患、その他の整形外科疾患、心肺の疾患、老年疾患、精神疾患

V 派遣について

日本人専門家の派遣は、中国側担当者との調整・教育機材の調整確認・教材の整備等の準備の必要があるため、教育開始に先立つ準備期間の配慮が必要であろう。

また41人と実技教育としては、通常単位の2倍の学生を対象とし、1日6時間の教育訓練を長期にわたって実施するためには、同時に3名以上の派遣が望ましいと考える。

VI 留意事項

1. 派遣される日本人専門家は、最低限の日常会話能力を備えるよう準備が必要であろう。
2. 教育訓練に際しては、通訳の確保と、実習助手の確保が必要である。
3. 派遣される日本人専門家の自動車運転は、現地の交通事情を考えると、慎重な検討が必要であろう。

VII 教育講演

中国側の要請により、センター職員を対象に「日本の理学療法・作業療法」と題して、次の各項についてスライドを用いて講演を行い、PT・OTに対する理解と協力を求めた。

1. 理学療法 (Physical Therapy) とは
2. 作業療法 (Occupational Therapy) とは
3. 治療の手順とチームワーク
4. 日本の理学療法・作業療法の歴史
5. 教育制度 (専門学校・短期大学・経過措置)
6. 理学療法士・作業療法士の数
7. 理学療法士・作業療法士の活動分野
8. 日本理学療法士協会 (学会)・作業療法士協会 (学会)
9. 卒後研修 (協会・士会・国・職場)
10. 世界理学療法連盟 (WCPT)・アジア理学療法連盟 (ACPT)
世界作業療法連盟 (WFOT)

(落合 美美子)

3.5 看護教育

I 教育対象：中日友好病院衛生学校において現在委託教育中で、1988年2月に卒業する学生(51人)について卒後教育をする。

II 教育期間：1988年3月より3ヶ月間

III 教育場所：学内教育は衛生学校で行う。

学外教育(臨床実習)は中日友好病院J棟4階を使う。

IV 病棟実情：・J棟4階病棟

・ベット数 44床

・中国人専用のリハビリテーション病棟

・看護婦 12名

・看護助手 2名

・三交代

・患者障害構造, 脳卒中, 一般整形の患者

V 条件：① 1987年7月より3ヶ月研修に来る中国人専門家の中から2名を看護教育の助手として援助してもらう。

② 自己学習をいれても可。

③ 演習室を準備し, 学内演習の充実をはかる。

VI 教育内容：リハビリテーション看護教育計画

到達目標・・・リハビリテーション看護に必要な知識・技術を習得し, 障害者に対して看護を実践できる。

* 一日講義時間数…………… 6時間

* 一週講義時間数…… $6 \times 5 = 30$

自己学習時間数…………… 3 } 33時間

* 週の内リハビリ看護に………… 10時間(2時間 \times 5)

使用できる時間数

* 本講義に要する時間………… 396時間($33 \times 12 = 396$)

・講義に要する時間…………… 120時間

・実習に要する時間…………… 165時間

[一般整形患者(一例)………… 66時間(2週)]

[脊髄損傷患者(一例)………… 99時間(3週)]

・演習に要する時間…………… 111時間

VII 派遣について：1988年3月よりの派遣になるため, 事前に以下について微調整を必要とする。

- ・講義
- ・演習
- ・実習
- ・教材（ビデオ，スライド，テキスト，演習用品）
- ・教務助手の確認

3.6 宿舎及び移動方法

I 宿 舎

日中友好病院病室，センターの仮設宿舎と建設中の宿舎，並びにホテル等について調査したが，日本人専門家の宿舎は，希望により次の何れかを利用できるよう，中国側において用意することとなった。

1. 日中友好病院J棟2Fリハビリテーション科病室（家具台所付き）
2. 北京市内のホテル（日壇ホテル・陶然ホテル程度）

II 移動方法

公務による移動（通勤を含む）の際は，日本の技術協力によって供与される車両等を使用し運転手を用意して，支障なく行われるよう中国側において配慮することとなった。

3.7 機材計画

I 調査・協議の概要等

1. 本調査及び協議は上記リハビリテーション研究センタープロジェクトにおける技術協力（専門職員の教育・指導）を効果的に実施するために必要とする機材の供与計画策定の基礎を得るためのもので、先きに決定した無償供与資機材とは別途に同国残疾人福利基金会に対して供与される機材に関するものである。
2. 調査及び協議にあたって前提としたことは、以下の通りである。
 - (1) 中国人専門家の教育、指導及びセンター開設に要する準備等に使用する機材であること
 - (2) 機材は原則として日中友好病院において使用されるものであるが、必要ある場合は他で使用される場合もあり得ること、また、センター開設後はセンターに移されるものであること

II 調査の経過及び結果

1. 中日友好病院

- (1) 病院においては、特にJ棟2Fリハビリテーション科の検査室、訓練室及び病室を視察したが、所定の医師及びナース（51名）、PT・OT（41名）の教育及び臨床実習を行うには、機材の種類・量ともに不足しており、さらに既存の機材もすでに旧式化しているものが多いことも認めざるを得ないのが実情である。
- (2) 衛生学校においては主に講義を中心とする教育が想定されるが、少数の教官が多数の学生を対象に短期間のうちに教育を行うには特に視聴覚教材の活用が必要となり、さらに派遣される日本人専門家がそれら教材を作成する作業も効率的に行うことが要求されよう。

同校における視聴覚機器及び同教材作成機器の現状は、新たな教育課程の増設に十分に対応し得るとは言い難く、これらを新規に整備することが教育効率を高めるうえで非常に重要なことであると判断された。

- (3) 参考図書についても決して十分とは言えず、学生の教育のみならず派遣専門家の教育の支援のためにも出来る限り用意しておくことが望ましかろう。

2. 第一分院

- (1) 現在のところ建物のみであり、医療・看護・訓練機器（車椅子を含む）ともに皆無である。
- (2) 急性期脊損者の手術及びリハのシミュレーションを企画しているとのことであるが、こゝでなされる実践の経験は開設後のセンターにとって非常に重要な意味を持っていくものと思われ、間接的ながらも強固な協力体制をとっておくことが必要であると判

断された。

III 協議の経過及び結果

(1) 協議の経過

中国側より、事前に用意した機材リストの提示があり、これを検討するとともに日本側から特に教育、実習に必要と思われる機材を提示した。また、日本側より以下の機材リスト構成案を提示し、再調整を行った。

・機材リスト構成案

- ① 医療機材 ② 訓練機材（PT・OT） ③ 看護機材
- ④ 視聴覚機材 ⑤ 図書その他

各機材リストは別添の通りである。

(2) 協議の結果

上記協議の結果、調査団より各部門間の調整及び予算との関係を勘案し、帰国後再調整して最終決定したい旨申し入れ、中国側の同意を得た。

IV 総括

技術協力に要する機材については、予め中国側において作成したリストを基に検討する方法をとったが、これらは教育の内容等に関する詳細を踏まえたものではなかったことから、日本側の提案を加えて改めて協議した。先きにも記した通り、最終的には調査団帰国後予算及び部門間の調整を行ったうえで決定することとなったが、調整に際しては、次について考慮する必要があるであろう。

1. 機材は ①友好病院（実習）、②友好病院衛生学校（教育）及び③第一分院（臨床）において使用されることになろうが、各々の役割と目的とを十分に踏まえて選定する必要があること
2. 段階的に供与する際には、教育・実習等プログラムに即した機材計画を策定すること、特に上記①及び②で使用する機材については日本からの派遣職員の意向を可能な限り聴取することが望ましいであろう。（図書についても教育スタッフの支援に足るものを用意することが望ましい。）
3. 消耗品は、原則として現地調達可能なものは現地にて用意することとしてきたが、例え調達可能の場合でも、その品質及び調達の実情からみて教育等に支障をきたすおそれと考えられる場合等は弾力的に判断する必要があること

機 材 関 係 資 料

	概算金額
1. 医療機材	44,000 千円
2. 訓練機材	92,000
3. 看護機材	2,400
4. 視聴覚機材	8,500
5. 図 書	4,300
計	151,200

- 1) 本リストは、協議の段階で日中双方が提示または口頭で提案したものである。
- 2) 一部機材の重複があるが、リスト上その使用場所の区分を行っていないためである。
- 3) 上記金額は現地調査終了段階での概算であり、今後の詳細検討によって修正されるものである。
 - ・一部を除き、消耗品を含んでいない。
 - ・教育を行う側からの図書、ビデオ等が不十分である。
 - ・その他、加除すべきものがいくつかある。

1 . 医療機材

Nursing Care Equipments

B1.	Turning beds and mattresses (Stryker frame) ストライカー 回転ベッド	1
B2.	Turning beds and mattresses (height adjustable) 回転ベッド(高さ可変)	1
A3.	Ordinary wheelchairs and Cushions 通常型車イス クッション	6
A4.	Wheelchairs for bathing シャワー用車イス	4
A5.	Wheelchairs for stool トイレ用車イス	4
β B6.	Electrical wheelchairs 電動車イス	4
A7.	Walkers (various) 歩行器	10
A8.	Urinary Catheters (Foley type and ordinary) 泌尿器用カテーテル	100
A9.	Urinals and adhesive for Condoms エリタール-式	100
A10.	Spirometer スパイロメータ	1
A11.	Ultrasonic nebulizer 超音波ネブライザ	1

Expenditure

B1.	Contrast media for myelography Amipague 脊髄造影剤(アミパグ)	50
B2.	Fast Setting Material for Orthoses (Polypropylene) ポリプロピレン	
C3.	Baclofen バクロフェン	100 mg
C4.	Flavoxate hydrochloride フラダロン	200 mg
C5.	Oxybutynin chloride マリオン(鎮痛剤) 本邦ナシ	150 mg
B6.	Gentamycin beads ゲイタマイシン ビーズ	50 chains

C7.	Diocetyl Sodium Sulfosuccinate ソルベソノ錠	2000g
C8.	Diphosphonale drugs (disodium etidronale)	1000g
C9.	Dantrolene Sodium ダントロレン	700g
C10.	Naloxane ナロキサン	50g
C11.	TRH	

Miscellaeneous

A1.	Instruments for Skull Traction 頭蓋牽引装置 (Gardner-well tong etc.)	2
B2.	Instruments for Spinal Surgery 脊椎外科用器具 Harrington Instrumentation ハリントン棒用器具 Luque Instrumentation ルーキー用器具 Anterior route Instruments for Cervical 頸椎前方固定用器具 Spene surgery	1 set 1 set 1 set
B3.	Milwaukee brace 側弯症用ミルウォーキー器具	1
B4.	Boston brace ボストン器具	1
B5.	Electrical dermatome 電動式ソルマトーム	1
B6.	Protecting sheets covering skin of 手術野シース(デスホ) the operating area	
A7.	Patient monitor 患者モニタシステム	1
A8.	Artificial Ventilator 人工呼吸器(レスピレーター)	1
A9.	Blood gas analyzer 血液ガス分析装置	1

B10.	Foam soft collar	5
	ソフトカラー装置	
B11.	Firm Plastizote (philadelphia)	
	フィラデルフィア カラー装置	
	Collar	5
B12.	SOMI Orthosis (Thomas Collar)	5
	ソミー 装置	
	(Sternal-occipital Mandibular immobilizer	
	occipital)	
A13.	Halo-type cervical orthoses attached to	
	ハロ-ジャケット	
	a polyethylene jacket	5
B14.	Pneumatic Orthoses	2
B15.	Wrist driven prehension Orthoses	2
B16.	Finger driven prehension orthoses	2
B17.	Balanced Forearm orthoses	2
B18.	Long opponen's adapted orthoses	2
B19.	Gas (CO ₂) driven prehension orthoses	2
B20.	Electrically driven prehension orthoses	2

康交工程器械和原料 (補装具関係)

DIAMETRAL GAUGE 直径メタルゲージ	23-66cm F4486-A	1 SET
VERTICAL FABRICATION JIG 水子ジグ	VFJ-100	1 SET
BALANCE-APPARATUS バランスジグ		1 SET
CARVING MACHINE カービングマシン		1 SET
BOOK VACCUM PUMP 真空ポンプ		1 SET
SUBORTHOLEN PLATE サブオルソレン		10 SET
POLYSER 414 PLATE ポリサゲプレート		10 SET
ABOVE-KNEE STUMP RULER AK-スタンプルーラー	F4488	1 SET
BELOW-KNEE STUMP RULER BK-スタンプルーラー	F4489	1 SET
GONIOMETER ゴニオメータ	PART NO 2T410	1 SET
KNEE-WIDTH RULER	F4491	1 SET
PVA FILM	0.068mm x 1000mm x 100 m/ ROLL	2 ROLLS
SCRAPER	PE-200	1 SET
SURFACE FILE		5 SET 5 SET
V.A.B/K CALIPERS	PART NO 2T-306	1 SET
VACCUM MOULDING MACHINE 真空形成機	AC220V 0.2 KW	1 SET

PLASTIC CUTTER プラスチック カッター	1C-1004 AC 220V	1 SET
HEAT PLATE ヒートプレート	AC220V 300 759H2	1 SET
BANDAGE(PLITCH-80)		200 rolls
FITTING JIG FOR BRACE	SIZE L.M.S.	2 SETS
前後傾足関節用足板	3 x 260	10
	3 x 240	10
	3 x 220	10
	3 x 200	10
	3 x 175	10
前後傾関節用 新型足板	3 x 19 x 155	40
	3 x 16 x 120	40
	3 x 13 x 105	40
CALIPER (SPLIT) STIRRUP	2.3 x 105 x 38 x 19	20
	2.3 x 80 x 25 x 16	20
	2.3 x 80 x 25 x 13	20
ANKLE JOINT SCREW		200
ANKLE JOINT NUT		200
	FLAT BAR	
ALUMINUM ALLOY BAR	LL:6 x 24 x 1000	
MATERIA LS	L 5 x 20 x 1000	100
	M 5 x 18 x 1000	100
	S 5 x 16 x 1000	100
	SS 5 x 14 x 1000	100

BELOW KNEE PREFORMED
POLYPROPYLENE ORTHESIS

L	30 SETS
M	30 SETS
S	30 SETS

LIMITED ROD

100 SETS

リミテッド・ロッド

6φ x 42mm 100

前傾足関節

5 x 16 mm	20
4.5 x 14 mm	20
4 x 12 mm	20

前傾足関節頭部

5 x 16	20
5 x 14	20
3.2 x 12	20

前傾足関節用足板

3 x 260	10
3 x 220	10
3 x 150	10

前傾足関節新型足板

3 x 22 x 158	10
3 x 19 x 158	10
2 x 13 x 105	10

前後傾足関節頭部

3 x 16	40
5 x 14	40
3.2 x 12 (WITH SPLIT STIRRUPS)	40

2. 訓練機材 (PT・OT)

PT. OT教育用機材

車椅子-リクライニング型	1
電動車椅子:電動リクライニング	1
マットレス:ゴム円座	5
マットレス:ウレタン	5
マットレス:大ラテックス	5
マットレス:小ラテックス	5
マットレス:フローテーション・バット	5
Training Bed 標準型	4
Walker 折畳み	5
Canes 木製	10
ロストランド・クラッチ	5
角度計-大(ST-1006)	10
角度計-小(ST-1005)	10
ハンマー	10
メジャー(2m)	10
ビン車	10
握力計-スمدレー(ST-1019)	3
握力計-油圧式(PC-5033)	1
ピンチゲージ(ST-1023)	2
肺活量計 ST1021	2
マルチン式人体測定機	3
皮下脂肪計	3
標準触覚計(ST-1011)	3
鋭敏触覚計(ST-1012)	3
能動義手(セット見本)上腕	1
能動義手(セット見本)前腕	1
作業用義手(セット見本)	1
常用義手(セット見本)	1
VA-NU筋電電動義手	1

車椅子-前方大車輪トラベラー	
車椅子-片手駆動型	
車椅子-手動チェーン型	
車椅子-手押し型・大車輪	
車椅子-手押し型・小車輪	
ドーランス フック (5XA)右用	1
APRLフック(VCS02-00)	1
APRLフック(V021-00)	1
ローランスハンド (DH-400右)	1
ロビンエイドハードハンド(RA-100右)	1
ロビンエイドソフトハンド(RA-200)	1
APRL VCハンド(44-00)	1
APRL VCハンド(223-00)	1
ナイロンリスト(1414)	1
APRLフレクションリスト(18-00)	1
FMクイックチェンジリスト(FM-100)	1
WDクイックチェンジリスト(WD-400)	1
WEナイロンフレクションリスト(WE-500N)	1
OWオーバルリスト(OW-100N)	1
エコノミーリスト(WE-500)	1
ローテーションリスト(RW-500)	1
屈曲リスト(FW-500)	1
手首離断用リスト(WA-600)	1
ヒンジ(6201)	1
スイベル付ヒンジ(6201G)	1
ホスマー肘(E-200)	1
ホスマー肘(E-200A)	1
アウトサイドロッキングヒンジ(E-500R)	1
ポリセントリック肘関節(PC-100)	1
倍働筋金(MA-100)	1
スライディングヒンジ(MA-200)	1
ホスマーシヨルダージョイント(FAJ-100)	1

PT.OT.実習用機材

中国肢体伤残康复研究中心

訓練基地 (中口良女病院)

必要物資機材

水療室

番号	名称	型式	数量
A 1.	双元浴	HTR-2200	1
2.	渦流浴装置 (気泡浴(寸巻))	WP-5000	1
3.			

電気と温熱療室

1.	治療台	SPR-541	1
A 2.	干渉波治療器	VT-2020	1
3.	瞬間強度曲線測定器	CX-2	1
4.	局部超音波浴装置	ES-1	1
5.	極超短波治療装置	MT-201	1
6.	低周波治療器	LS-101	1
A 7.	超低温治療儀		1
8.	パラフィン浴装置	NS-401	1

中国肢体伤残康复研究中心

運動療法室

A 1.	起立訓練用傾斜ベルト	SPR-3301	1
A 2.	マット訓練台	SPR-504	1
A 3.	歩行補助平行棒	SPR-3210	1
A 4.	オーバヘッドフレーム	SPR-4200	1
	5. 電動式負荷運動装置	SPR-703	1
A 6.	筋力測定評価反力運動器	CYX-330C	1
A 7.	負荷運動装置 (Elgo mater Combi)		1
A 8.	負荷運動装置 (Elgo mater Fitron)		1
	9. 歩行補助平行支持台	SPR-3280	1

ADL 作業療法室

A 1.	洗剤七輪台装置	SAD-1211	1
A 2.	トイレマット装置	SAD-1310	1
A 3.	手首訓練用木片	SAD-703	1
A 4.	手首訓練用木栓	SAD-704	1
A 5.	卓上式織機	SOT-1505	1
A 6.	卓上式織機 (足踏式)	SOT-1506	1

中国肢体伤残康复研究中心

A 7. 縫紉機	SOT-1510	1
A 8. 足踏式鋸	SOT-1104	1
A 9. 電動式鋸	SOT-1104	1
A 10. 上肢機能測定装置	SOT-1800	1
A 11. 足踏式力こり	SOT-1327	1
A 12. 電動式力こり	SOT-1305	1
A 13. 電気炉	SOT-1322	1
A 14. 七宝焼用具セット	SOT-1305	1
A 15. 皮革作業用具セット		
A 16. 木工作業用具セット		
A 17. 家庭用器具用具セット		
A 18. 用器用具セット		
A 19. スタンディングテーブル		

中国肢体伤残康复研究中心

水療室

1. 湯流浴装置 (全身及下肢) WP-5000 1

電気と温熱療法室

1. 干渉波治療器 VT-2020 2

2. 時間-強度曲線描画器 CX-2 1

3. 局部超音波浴装置 ES-1 1

4. 極超短波治療装置 MJ-201 1

5. 低周波治療器 LP-101 2

6. パラフィン浴装置 NS-401(OG) 1

中国肢体伤残康复研究中心

運動療法室

A 1.	起立訓練用傾斜パッド	SPR-3301	1
B 2.	起立訓練用傾斜パッド	SPR-3000	1
A 3.	訓練用マット	SPR-501	4
A 4.	マット訓練台	SPR-504	2
A 5.	歩行補助平行棒	SPR-3210	2
A 6.	歩行補助用三面鏡	SPR-514	2
B 7.	歩行訓練用階段	SPR-338	1
A 8.	オーバヘッドフレーム	SPR-4220	4
B 9.	頰部、腰部牽引装置	OL-200	1
A 10.	車椅子		
	① リクライニング式呼吸器コントロール式		1
	② リクライニング型		2
A 11.	歩行補助器		1
	① 交互型歩行器		3
	② ウォーカー (折りたたみ)		3

中国肢体伤残康复研究中心

A 13. 杖		
① アルミ製松葉杖		3
② 前臂カフ付き		3
③ クアドリポイグケイン(四つ)		3
④ " (三つ)		3
A 14. 神経科テスト用具セット		
A 15. 運動系テスト用具セット		
A 16. ¹⁶² 三角マシ ¹⁶⁺ push up 台		5
A 17. 砂袋 2kg - 10kg		5/1
A 18. Oxygen Consumption Analyzing system 1.		
A 19. E.M.G Biofeedback Trainer BIC-2000 2		
A-20. ビデオ		
[videocorder (use VHS video tape size should be big 1/2 type = NTSC 制)]		
A-21. 監視器		
[Monitor (type: NTSC		

中国肢体伤残康复研究中心

videocorder and monitor will be
used for the education of the
patients or for the doctors or
medical assistants to give
a lesson to the patients.]

中国肢体伤残康复研究中心

ADL 作業療法室

A	1. 米飯七糎台装置	SAD-1210	1
A	2. トイレ小装置	SAD-1310	1
A	3. 手造訓練用スライダ	SAD-703	1
A	4. 手造訓練用木栓	SAD-704	1
A	5. 卓上織機 (足踏式)	Sot-1506	1
B	6. 卓上織機	Sot-1505	1
B	7. 織機	Sot-1510	1
B	8. 電動式糸鋸	Sot-1104	1
A	9. 上肢機能測定装置	Sot-1800	1
(Sanding Board)			
B	10. 足踏式力計	Sot-1327	1
B	11. 電動式力計	Sot-1325	1
B	12. 電気炉	Sot-1322	1
A	13. 革細工用具	Sot-1401	1
A	14. タイプ (英語・日本語両方ともつかえるもの)		2
A	15. 家電修理用具セット		2

中国肢体伤残康复研究中心

B. 16.	裁縫機用ミシン		1
	(sewing Machine for shoemaker)		
B. 17.	織機		1
	(Knit Knitting Machine)		
A. 18.	テレビゲーム		1
	(T.V. Game Trainer)		
A. 19.	リフター		2
	(patient lifter)		
A. 20.	木工作業療法器具		1
B. 21.	彫刻作業用具		1
A. 22.	スタンディングテーブル		1
	(standing table)		
A. 23.	セラプラスチック	SPR-105	2
A. 24.	ゴム式手指運動練習器	SPR-112	2
A. 25.	パッドボード (4歳セット)	SOT-2100	2
A. 26.	手指訓練用ボード	0歳掛付けセット SAD-701	1
A. 27.	経台	SOT-1507	1

中国肢体伤残康复研究中心

A. 28. polypropylene plate 厚 3mm 30kg

(Thermoplastic)

A. 29. 白朮

スプリット (split sample)

リーチー

パ>ホルダー

A. 30. ティキ輪投

SPR-585 2

A. 31. トランフ°立て

10

3. 看護機材

看護(教育実習)

No.

Date

キッズベッド (KA-471) 2-75cm	3
(" 481) ハイベッド-2-75cm	3
(" 482) " ワンタッチベッド	1
(" 488) " 2-75cm	1
(" 525) 電動2-75cm	1
(" 535) " " "	1

床頭台 (KF-311) ベッドサイドキャビネット

マットレス (KE-181) キルティングスプリング	2
(" 171) デンションスプリング	2
(" 260) ロームピクス	2
(" 301) チェッカー	2
(" 401) フラックス	2
(" 710) アビリス	2

リネンシート

人形 (万能型実習モデル人形) 男女兼用	5
----------------------	---

4. 視聽覺機材

ポータブルワイヤレスシステム

Portable Wireless Amplifier/Receiving System

1.	National	Model	WX-800C	2
2.	WX-DJ	Diversity Tuner unit of freg	40.68MHz	2
3.	WX-DR	Diversity Tuner unit of freg	37.10MHz	2
4.	WX-480AS	Lapel Type Wireless Microphone	40.68MHz	2
5.	WX-480AR	Lapel Type Wireless Microphone	37.10MHz	2
6.	WX-470AR	Hand Type Wireless Microphone	40.68MHz	1
7.	WX-470AJ	Hand Type Wireless Microphone	37.10MHz	1
8.	WX-355AN	External antenna	prefixed type	1
9.	WX-380N	External antenna	portable type	2

35mm ELMO Slide Projector

ELMO エルモスライド映写機 252 1

フレーションとBGMで映写交差を倍増するスライドコーター 801 1

スライドタイマー T-2 1

アセチレン 1

50mm F2.8 1

70~125mm F2.8 1

スライドの収納は、横型円型トリー、 (80枚収納) 2

電源 AC 220V 50 Hz

1. Nikon F3 Camera f1.2 50mm Nikkor Lens A & CF-22 Case *NIKON カマラ, レンス* 1
2. E36--72mm f3.5 Nikon zoom Lens CL-32S No62 CP-9 HK-8 *ズーム レンス* 1
3. E70--210mm f4 Nikon zoom Lens CL35A No63 HN-24 *ズーム レンス* 1
4. 120mm f4 IF Medical-Nikkor Battery Pack LD-2 Ac-Unit LA-2 Compartment Case *× カミカール用, レンス* 1
5. 55mm f2.8 Micro CL-31S No61 CP-8 CL-33S No62 HN-3 *レンス (マイク P)* 1
6. Focusing Screens T. M. P. *ファイナ" スクリーン* 1
7. Speedlight Unit SB-16A Flash Adapter AS-8 AS-7 *スピード ライト ユニ" ット* 1
8. Teleconverter 2x TC-14 → *7C-14 Adapter* *テレコンバー" タ* 1
9. Waist-Level Finder DW-3 *ウエスト レベル ファイン" ダ* 1
10. Right-Angle Viewing Dr-3 *アング" ル ファイン" ダ* 1
11. Data Back MF-14 *データ バック* 1
12. Motor Drive MD-4 *モーター ドライブ* 1
13. NC Battery MN-2 *ニッケル 電池* 1
14. NC Battery Quick Charger MH-2 *クイック チャ" ジ" ャ* 1
15. Tripod Adapter AH-2 → AH-3 *三脚* 1
16. Repro Copy Outhit PF-4 *17° コピー ユニ" ット* 1
17. Table Clamp PC-3 *テーブル クランプ* 1
18. Bellows Focusing Attachment PB-6 *ビ" ッド - ス" ャ" ック* 1
19. Double Cable Release AR-7 *ダブル ケーブル リ" リ" ス* 1
20. Focusing Stage PG-20 → PG-2 *ファイナ" グ ステ" ッ" ャ* 1

21.	Slide Copying Adapter	PS-6		スライド複写装置	1
22.	Macro Copy Stand	PB-6M		マイクロコピースタンド	1
23.	Auto Extension Ring	PK-11	PK-12	自動接写リング	1
24.	Close-up Attachment Lenses No. 0.1.2.3T. 4T. 5T.			クローズアップレンズ	1
25.	Gray Card			標準反射板	5
26.	Cases	FB-18.	CF-21A	ケース(カラダ巻)	1
27.	62mm Skylight 1BC	UV	L37C	62mm マルマ (スカイライト)	1
28.	52mm Yellow Y48 (M)	Y52 (D)		52mm マルマ (イエロー)	1
29.	52mm Skylight 1BC	UV	L37C	52 " (スカイライト)	3
30.	52mm Orange O56			52 " (オレンジ)	1
31.	52mm Red R60			52 " (レッド)	1
32.	52mm Neutral Density ND2(L)	ND4(M)	→ 39mm	39 " (ND)	1
33.	52mm Amber A2(L)	A12(D)		52 " (アンバー)	1
34.	52mm Blue B2(L)	B8(M)	B12(D)		1
1.	MINOLTA III-F	Meter			1
2.	MINOLTA II Color Temperature Meter				1
3.	Cherry Deluxe Film Loader				4
4.	Sunpak Auto Zoom 3600	Flash Unit			1

中国肢体伤残康复研究中心

Videocorder (use VHS video tape) x1

size should be big 1/2

type: NTSC)

Monitor (type: NTSC) x1

教育用VTR (Videocorder and monitor will be
(NTSC, VHS) used for the education of the patients
or for the doctors or medical
assistants to give a lesson to the
patients)

日本側より補足提示した視聴覚機材 — 主に教育支援機材

1. VTR、TV関係

- ① VTRシステム …… カメラ、デッキ、モニター等
NTSC、PAL 各方式への対応を考慮する。
- ② TV …… ビデオ一体型
- ③ その他 …… インハンダ等

2. スライド、OHP関係

- ① スライド映写機 …… 35mm 通常型
- ② スクリーン …… 通常型及びフライト型
- ③ OHP …… 通常型
- ④ トランスパレンシメータ …… 通常型
- ⑤ スライド作成機 …… カラー対応（ただし当初不要）

3. スチールカメラ …… 通常型

4. その他

- ① 実物投影機 …… 通常型

* 中国側要望

- ① 複写機 …… メンテナンス、消耗品等の条件から在北京日本メーカー製品希望
- ② 和文・中文ワーカ …… 帰国後実情調査とする
- ③ カタログ ……
- ④ TVゲームソフト …… 訓練用、

5. 図 書

中国肢伤线装研究中所需日文书籍目录

痛一康复理疗	石田肇	78	B5	200	4000	医学书店
运动学讲义	中村隆一·代译	84	B5	190	2800	医齿学出版
运动器械疗法	共金博志·代译	84	B5	326	5800	医齿学出版
运动器械疗法	共金博志·代译	82	B5	210	5800	"
运动疗法	阿部亚和·代译	78	A5	508	15000	朝仓书店
运动疗法(带卡纸的)	石田肇·代译	73	A5	185	3000	医学书店
学肩障碍学(下)——纤维疗法、区疗法指导	佐藤合治	81	A5	172	3000	医齿学出版
	开卷 (E. R. Squire/Healy 著)					
学肩障碍学(带卡纸的)	共田彦保·代译	82	A5	182	5800	医齿学出版
下肢截肢者的康复	川村次郎·代译	81	A5	142	2800	"
肩症、腰痛和打球	中村泰太郎·代译	85	A5	98	1900	金原出版
偏瘫的康复治疗	S. Brumstems		A5	212	5000	医齿学出版
偏瘫的评估与治疗	(B. Rebell 著)	74	A5	212	5000	"
冠脉血运重建的康复治疗——予防、诊断、法	佐藤彦彦	80	A5	208	4000	"
	石川作用(第2版) (G. F. F. 著)	83	B5	230	4200	协同区平出版
老成也力学(第0版)	中村隆一·代译	83	B5	402	5500	医齿学出版
石膏绷带技术图解(第2版) (E. E. Block 著)	帝麻篤	76	B5	184	5500	协同区平出版
狭心症、心肌梗塞的康复	本全心一	84	B5	206	6000	南江堂
颈肩腕症候群 (金原医学丛书49)	石田肇	83	B6	140	800	金原出版
保脊治疗的理论和实践——根性行动力学						
	理论的研究 (D. E. Perkins 著)	84	B5	410	8500	协同区平出版
语言病理学 (W. H. Perkins 著)	何一都	79	B5	320	7800	医齿学出版
语言病理学诊断法(第0版) (F. L. Doolittle 著)	笹田澄子·代译	82	B5	500	14000	协同区平出版

语言病理学·听视觉研究法 (F. H. Stimmell 著)	伊藤元佳·地译	83	B5	324	6.00	中国医药出版社
高次视觉障碍检查法——兼论失认、失读、失语、失算、失定向 (E. S. Levitt 著)	(R. L. Stubb 地著) 上田敏典译	81	A5	214	3.20	医学出版社
失语失认的评估与治疗——以耶鲁大学为中心 (E. S. Levitt 著)	福井国彦·地译	80	A5	128	1.70	医学出版社
与失语有关的障碍——失读、失算、失定向、失定向 (E. S. Levitt 著)	福井国彦·地译	84	B5	394	1.40	医学出版社
望症、心身障碍、焦虑、如前所述	江草彦芳·地译	82	A5	200	1.50	医学出版社
信件病者指南 (M. Hays 著)	村井正真 译	81	B5	302	5.80	医学出版社
心肌梗塞与预后——大动脉粥样硬化性心脏病	中野元隆文·地译	84	A5	210	4.50	医学出版社
如子病者指南						
神经肌肉传递技术 (第2版) (M. Kugel 著)	鎌倉矩子·地译	76	B5	270	6.50	中国医药出版社
心脏病常用管理法和预后 (M. Kugel 著)	《心脏病》编辑部	81	A5	212	4.50	医学出版社
心脏病常用管理法和预后——血液动力学	河金英一 著	85	A5	200	4.50	医学出版社
心脏病常用管理法和预后——血液动力学	上田敏典·地译	83	A5	200	5.50	医学出版社
心脏病常用管理法和预后——血液动力学	市川宣泰·地译	83	A5	168	3.80	医学出版社
心脏病常用管理法和预后——血液动力学	安藤纯彦·地译	84	B5	222	4.50	医学出版社
心脏病常用管理法和预后——血液动力学	斋藤纯彦 著	81	B5	110	3.50	中国医药出版社
心脏病常用管理法和预后——血液动力学	藤崎秀男 著	76	A5	124	3.00	医学出版社
心脏病常用管理法和预后——血液动力学	中村隆一 著	83	B5	180	4.50	医学出版社
心脏病常用管理法和预后——血液动力学	中村隆一 著	77	B5	160	4.20	医学出版社
心脏病常用管理法和预后——血液动力学	中野元隆文·地译	84	A5	118	2.00	医学出版社

手足残缺者的道途——人权思想的发展与展望·器具的进步	武智彦夫 著 引	B1	186	1450	医药出版社
癫痫的疗法 (A. M. 瓦列夫著)	张元波 绍夫 译	80	317	3000	创造出版社
癫痫与理学疗法 (A. M. 瓦列夫著)	石石 著	82	92	1000	金盾出版社
徒手肌肉检查法 (A. M. 瓦列夫著)	津山直一 代译	82	200	5000	中国医药出版社
日常生活动作 (A. M. 瓦列夫著)	土屋弘共 代译	82	374	6000	医药出版社
日常生活动作 (A. M. 瓦列夫著)	青木达一郎 代译	82	316	2000	医药出版社
日常生活动作 (A. M. 瓦列夫著)	上田礼子 著	80	120	2000	医药出版社
日常生活动作 (A. M. 瓦列夫著)	高松雅夫 代译	79	224	3000	"
日常生活动作 (A. M. 瓦列夫著)	高松雅夫 代译	75	496	13000	"
日常生活动作 (A. M. 瓦列夫著)	甘黎重信 编	81	150	3800	中国医药出版社
日常生活动作 (A. M. 瓦列夫著)	寺次幸一 编	82	150	3800	"
日常生活动作 (A. M. 瓦列夫著)	鬼玉和夫 编	83	210	5500	"
日常生活动作 (A. M. 瓦列夫著)	野吹俊之 编	84	192	4200	"
日常生活动作 (A. M. 瓦列夫著)	三宅良吉 编	85	190	4200	"
日常生活动作 (A. M. 瓦列夫著)	津山直一 著	77	240	6000	"
日常生活动作 (A. M. 瓦列夫著)	津山直一 著	79	280	6500	"
日常生活动作 (A. M. 瓦列夫著)	津山直一 著	80	400	7500	"
日常生活动作 (A. M. 瓦列夫著)	握邦一郎 代译	73	112	1800	医药出版社
日常生活动作 (A. M. 瓦列夫著)	寺津幸一 代译	85	154	2500	"

(1128)

脑性瘫痪的早期诊断及早期治疗与预后(原书)(M. R. F. Fenwick 著)	小池文美 译	75 B5	58	190	医学出版社
脑瘫的分类(原书)(R. Bobbitt 著)	郝沛一部学译	78 A5	124	230	" "
中风偏瘫患者在下肢表现	日本物理疗法研究会编	82 B5	130	390	" "
中风偏瘫患者(原书)(R. Collin 著)	狄锡考里 译	82 A5	116	280	" "
中风偏瘫患者(原书)(第2版)	狄锡考里 译	85 A5	386	290	" "
生物反馈法的基础与临床	熊永秋 编	83 A5	300	390	在松书院
膝、足关节及足部的新神经运动(原书)(D. R. F. Fenwick 著)	井原秀俊 译	77 A5	226	200	医学出版社
维持姿势的神经运动学及诊断法(T. Heilbrunn 著)	石福端 译	81 A5	150	250	" "
成人慢性脑性瘫痪的诊断法(M. C. C. Kennedy 著)	井上明彦 译	73 A5	192	250	" "
慢性脑性瘫痪的诊断法(原书)(J. A. de Casanova 著)	伊藤亮 译	78 B5	122	350	" "
风湿病疾患——作出诊断与预后(J. L. Nelfield 著)	木村信子 译	82 B5	260	350	共同医学出版社
现学疗法(原书)	奈良道 编著				修订中 医学出版社
脑发育障碍研究——病例研究	米仓博志 编	81 B5	110	490	医学出版社
发育医学	津山直一 编	83 B5	266	450	医学出版社
发育医学	上田敏 编	83 B5	350	450	医学出版社

康复基础理论	岩倉博士著	84	B5	236	4200	医学书店
康复处方学 (第2版)	森島孝男著	80	A5	284	4000	医学书店
康复神经学	福井関彦編	84	B5	372	6200	
康复论神经学	梁田英夫編	81	B5	186	4500	
康复整形外科理学 (政订第2版)	大倉清 著	83	B5	204	4000	医学书店
康复知识总论 (第3版)	医道药出版	83	A5	568	4000	医道药出版
康复中加理学和法	岩倉博士著	84	B5	278	3500	金原书店
康复知识总论 (增补订版)	日本教育学会	82	A5	496	5500	医学书店
康复知识总论 (政订第3版)	大塚哲七 著	85	A5	700	7400	金原书店
康复运动学	中野隆一 代卷	79	B5	218	3500	医学书店
Krusen "Little" 1st 2nd 本系 (普及版) (F. Krusen 代卷)	森島孝男 译	81	B5	380	4500	
LICHT 中风得共 (S. Licht 代卷)	森島孝男 译	81	B5	400	4500	
McKenzie 腰痛治疗法 (R. McKenzie 著)	谷本信治 译	84	B5	186	4500	
PWF 神经肌肉控制技术 (森島孝男 代卷)	倉原健一 译	85	B5	142	3800	
肩痛 (原第2版) (R. Cailliet 著)	森島孝男 译	85	A5	170	4300	
手痛和腕部障碍 (原第3版) (R. Cailliet 著)	森島孝男 译	85	A5	210	4300	
颈部疼痛 (原第2版) (R. Cailliet 著)	森島孝男 译	85	A5	170	4300	
腰痛症 (原第3版) (R. Cailliet 著)	森島孝男 译	83	A5	240	4500	
膝痛和腕部障碍 (原第2版) (R. Cailliet 著)	森島孝男 译	85	A5	190	4300	
取供镇痛药技术障碍 (R. Cailliet 著)	森島孝男 译	79	A5	380	3000	
《康复医学讲座》	岩倉博士 编	81	A5	442	3800	
1. 康复医学概论	上田礼子 著	85	A5	272	2600	
2. 人的发育学						

4. 神经生理学 (神经生理学)	中野隆二 编	85	A5 212	260	医学出版社
9. 障碍学 (生理)	三泽善二 著	85	A5 186	255	"
13. 神经肌肉疾患	宇屋野益久 编著	84	A5 128	200	"
《临床医学全书 (全2卷 外卷1)》				(外2卷) 14,800	
17. 风湿病 (第2版)	佐藤泰雄 等著	83	A5 468	600	医齿药出版
外卷 临床医学用辞典—续刊	上田敏 编				医齿药出版
病理学大会	Chomiyagi 等著	73	B5 400	450	"
表面解剖学代偿之动	森田孝仁 等著	74	B5 190	380	"
骨、关节及纤维组织的看起方法	大田仁史 著	77	B5 166	400	"

康复医学 津上代编 天津大学
 康复总论 文坂
 康复诊疗技术 段进(原著) 林勇
 康复处方学 子野 医学书店
 临床肌电图. 电气生理学入门 Sarno著 福井, 笹原, 松冈, 福井译 医学书店
 中风 (译者与原著者同名) 苏锡莹译
 中风的急救训练
 止风的理学疗法 (保藤次译) 安藤, 太新, 石光, 木下著 医学书店
 脊髓损伤手册 (原俊管理) 北川次译
 残废人的心理与行动 (McDaniel著) 上田译 医学书店
 残废人的心理与行动 森, 志桥著
 物理疗法与交线 奈良河著
 物理疗法概论 岩仓
 康复中的理学疗法 Ges Kelle, Welten著 英文译 医学书店
 布位布位医德的胸部理学疗法 真野监译
 理学疗法. 作业疗法的神经理学. 布谷志书好读 译, 筑岛
 PNF 神经肌肉促进技术 土屋, 今田, 木川编
 日常生活动作 (APL) (评价与训练) 津上监修
 最新神经肌肉学 (评价与训练) 谷沼, 伊藤, 伊藤, 福边, 松井
 失语症的康复实验 (特一型) 断下金堂, 治疔给卡尼 福井, 河内监修
 失行, 失认的评价与治疗 (以病人作为中心)
 特殊失语症时态至用书 (失语症, 研究令)

残疾人生活百科	日本残疾人生活协会编		
儿童心理心理学事典	内山善久雄监	BS 550	岩波学芸出版社
残疾人的医疗与教育	大川尚雄著	AS 280	友光社
日本特殊动作——作与训练的实践——	土屋弘彦、今田恒太郎编		医齿药出版
神经肌肉促通技术	内山尚雄著		鎌倉金福堂代
中国的理学疗法	内山尚雄著		加藤孝昭译
神经生理学的治疗法之理论与实践	内山尚雄著		加藤孝昭译
水球疗法之理论与实践	宫下高正、川崎芳照编	BS 288 450	金作出版
直线疗法之理论与实践	五井修介著	AS 184 190	教育出版
作业疗法 (第I卷) (改订第5版)	片山本邦彦编		小川孝子代译 BS 370 650 共同医学出版社
作业疗法 (第II卷) (改订第5版)	片山本邦彦编		寺山久美子代译 BS 370 550 " "
作业疗法 (第III卷)	片山本邦彦编		鎌倉金福堂代译 BS 370 700 " "
残疾人的作业疗法——症例、分析、治疗的实践——	上野正太郎、内山尚雄、小川孝子代译	BS 460 750	" "
脊髓麻痹	内山尚雄著		常藤篤译 BS 150 350 " "
障害生活の指導 (弱智児の指導事例集3)	山口通博	BS 110 200	明治图书
慢性麻痺の治疗教育	岸田三郎著	AS 349 320	三友社书店
新法麻痺已并法进行的胎性麻痺の语言治疗	M. C. クロウチ著		井上明生代译 AS 190 250 医齿药出版
语言障害事典	内须川边、高野清治编	AS 560 560	共学社出版
语言治疗の理论与实践 (第2版)	D. E. モーラー著		伊藤元信译 BS 610 850 共同医学出版社

教育資料

一、日本リハビリテーション医学会卒後研修用サウインド、

スライド集 (50巻)

巻 1. 2. 3. . 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14.

15. 16. 18. 20. 21. 25. 26. 27. 28. 29. 30.

31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41.

43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54.

55. 56. 57. 58. 59. 60.

二、日本リハビリ技術全書 (多巻集) など

三、日本各大学のリハビリ医師 (physiatrist), pt. ot. st.

及びリハビリ工程人員養成用の教材

四、その他の教育用のビデオ、フィルム、映画フィルム、サウインド、

スライドなど。

中国肢体伤残康复研究中心

看護書籍

- | | |
|-----------------|---------------|
| 看護概念 | 看護管理 |
| 看護学大辞典 | 看護学总論 1. 2. |
| 看護過程 | 成人看護学总論 |
| ✓ 看護計画と技術 ✓ | 成人看護学各論 1-11. |
| ✓ 看護工作手冊 (上下) ✓ | |
| ✓ 看護相談 | |
| 看護統計学 | |
| 看護基础 | |
| 看護基础 (I. II) | |
| 看護臨床营养学 | |
| 看護観察 (I. II) | |
| 看護理论理解 | |
| 救急看護医学辞典 | |
| 系统的看護 (治療方針) | |
| 臨床看護研究 | |
| 《看護学講座》全6巻 | 392.000- |

中国リハセンター参考図書

| 図 書 名 | 出 版 社 | 金 額 |
|-----------------------|--------|-----------|
| リハサウンドスライド集 30巻 | リハ医学会 | 1,116,000 |
| リハ関係VTR-全10巻リハナーシング | ポルプ社 | 298,000 |
| PT、OT誌バックナンバーVOL14~19 | 東亜ブック | 150,000 |
| 総合リハバックナンバーVOL1~13 | 東亜ブック | 390,000 |
| リハ医学全書-全22巻 | 医歯薬出版 | 110,000 |
| ダニエルのMMT | 協同医書出版 | 5,000 |
| リハビリテーション技術全書 第2版 | 医学書院 | 23,000 |
| 図解四肢と脊柱の診かた | 医歯薬出版 | 4,500 |
| 生体観察 | 南山堂 | 5,500 |
| 基礎運動学 | 医歯薬出版 | 3,500 |
| 体のアライメントと機能 | 医歯薬出版 | 3,000 |
| 中枢神経疾患の理学療法 | 医歯薬出版 | 4,200 |
| 中枢神経疾患の作業療法 | 医歯薬出版 | 4,200 |
| 手の外傷 | 医歯薬出版 | 18,000 |
| 手の末梢神経障害 | 南江堂 | 7,500 |
| 手の装具療法 | 医学書院 | 11,000 |
| テーピングの実際 | 南江堂 | 3,800 |
| 脳性麻痺の整形外科治療 | 医歯薬出版 | 8,500 |
| 臨床筋電図 | 協同医書出版 | 5,500 |
| 臨床筋電図入門 | 金原出版 | 4,900 |
| 脊髄損傷 | 金原出版 | 5,200 |
| 脊髄麻痺 | 協同医書出版 | 3,800 |
| 小児の整形外科 | 医歯薬出版 | 6,800 |
| 整形外科学、外傷学 | 文光堂 | 7,500 |
| 義肢装具のチェックポイント | 医学書院 | 5,000 |
| 義肢装具のための基礎知識-全4巻 | 医歯薬出版 | 24,000 |
| 脳卒中片麻痺患者の下肢装具 | 医歯薬出版 | 3,900 |
| 装具 | 医学書院 | 5,000 |
| 装具治療マニュアル | 医歯薬出版 | 6,500 |
| 脊髄損傷マニュアル | 医学書院 | 4,800 |
| 四肢麻痺と対麻痺のリハビリテーション | 医学書院 | 3,900 |
| 身体障害者のスポーツ | 医学書院 | 3,800 |
| 日常生活動作 | 医歯薬出版 | 6,500 |

| | | |
|-----------------------|--------|--------|
| ウィラード、スバックマン作業療法-全3巻 | 協同医書出版 | 18,000 |
| セラピストのためのボディメカニクス | 協同医書出版 | 1,600 |
| PT・OTのための神経生理学プログラム演習 | | |
| 1. 筋紡錘 | 医歯薬出版 | 3,000 |
| 2. 運動発達と反射 | 医歯薬出版 | 3,200 |
| カリエの痛みシリーズ-全7巻 | 医歯薬出版 | 20,600 |
| リウマチ疾患 | 協同医書出版 | 3,800 |
| 脳性麻痺研究-全3巻 | 協同医書出版 | 20,000 |
| 脳性麻痺児の基礎学習能力 | 協同医書出版 | 3,800 |
| 脳性麻痺の類型別運動発達 | 医歯薬出版 | 2,300 |
| 発達障害の評価と治療 | 協同医書出版 | 6,500 |
| 発達障害児 上・下 | 医歯薬出版 | 6,000 |
| 学習障害児 上・下 | 医歯薬出版 | 7,500 |
| 感覚統合と学習障害 | 協同医書出版 | 4,800 |
| 子供の発達と感覚統合 | 協同医書出版 | 3,800 |
| ベッドサイドの神経の診かた | 南山堂 | 6,500 |
| 感覚統合研究-全2巻 | 協同医書出版 | 7,300 |
| 義手 | 医学書院 | 2,800 |
| 自助具 | 医歯薬出版 | 2,800 |
| バイタルサイン | 医学書院 | 2,200 |
| ベッドサイドの呼吸器病学 | 栄光堂 | 5,800 |
| 呼吸生理学入門 | MEDSI | 3,200 |
| 慢性呼吸不全の運動療法 | 医歯薬出版 | 3,800 |
| 冠動脈疾患の運動療法 | 協同医書出版 | 4,200 |
| 虚血性心疾患と運動 | 医学書院 | 6,900 |
| 物理療法の実践 | 南山堂 | |
| 物理療法の全て | 医歯薬出版 | 4,000 |
| 理学療法VOLI~3 全16冊 | | 17,600 |
| リハビリテーション基礎医学 | 医学書院 | 9,500 |
| リハビリテーション整形外科 | 医学書院 | 4,000 |
| KRUSEXリハビリテーション体系 | 医歯薬出版 | 9,500 |
| リハビリテーション神経学 | 医歯薬出版 | 6,200 |
| 運動器疾患とリハビリテーション | 医歯薬出版 | 5,800 |

| | | |
|-------------------|--------|-------------|
| リハビリテーションを考える | 青木書店 | 2,000 |
| 世界のリハビリテーション | 医歯薬出版 | 4,500 |
| リハビリテーション白書 | 医歯薬出版 | 5,500 |
| 失行・失認の評価と治療 | 医学書院 | 1,700 |
| 失語・失読・失書 | 協同医書出版 | 5,500 |
| 高次脳機能検査法 | 医歯薬出版 | 3,200 |
| 図説 脳卒中のリハビリテーション | 医学書院 | 1,900 |
| 目でみる脳卒中リハビリテーション | 東大出版会 | 3,200 |
| 脳卒中片麻痺の肩 | 医歯薬出版 | 2,800 |
| 脳卒中の理学療法 | 協同医書出版 | 3,800 |
| 目でみるリハビリテーション医学 | 東大出版会 | 2,800 |
| バイオフィードバック法の基礎と臨床 | 杏林書院 | 3,900 |
| ベッドサイドの牽引療法 | 協同医書出版 | 2,800 |
| キャストマニュアル | 医学書院 | 4,800 |
| 片麻痺の運動療法 | 医歯薬出版 | 5,000 |
| 片麻痺の評価と治療 | 医歯薬出版 | 4,000 |
| 痛みーリハにおけるアプローチ | 医学書院 | 4,000 |
| 理学療法概論 | 医歯薬出版 | 3,200 |
| 神経筋促進手技 | 協同医書出版 | 6,500 |
| ブロンプトン病院の胸部理学療法 | 医学書院 | 2,700 |
| 脊椎・脊髄疾患ー診断と治療 | 医歯薬出版 | 13,500 |
| THE SPINAL CORD | 医学書院 | 16,000 |
| 身体障害者の心理と行動 | 医学書院 | 5,500 |
| | | 計¥2,573,000 |
| | | 78,600 |

協 議 議 事 録

中華人民共和国
肢体障害者リハビリテーション研究センタープロジェクト
長期調査に係る協議議事録

中華人民共和国肢体障害者リハビリテーション研究センタープロジェクト（以下『プロジェクト』という）にかかる中華人民共和国政府よりの技術協力にもとづき、日本国政府は長期調査の実施を決定し、国際協力事業団は、厚生省国立身体障害者リハビリテーションセンター診療部長 二瓶 隆一を団長とする専門家チームを1986年9月28日から10月11日まで中華人民共和国に派遣した。

専門家チームは、中国側関係機関の協力を得て、協力計画について調査を行うとともに中国残疾人福利基金会 繆鴻石を団長とする中国側代表団と、協力の枠組み及び内容について協議を重ね、意見交換を行った。

この議事録は、これら協議の結果を別紙のとおりまとめ、署名により確認するものである。

1986年10月10日

於 北京

日 本 国
国際協力事業団
専門家チーム団長

二瓶 隆一

二瓶 隆一

中華人民共和国
残疾人福利基金会
代表団団長

繆鴻石

繆 鴻石

別紙

I 協力の原則

技術協力の実施にあたっては以下を原則とする。

- (1) リハビリテーション研究センター（以下「センター」という。）開設以前の技術協力は中日友好病院において行う。ただし、必要ある場合にはセンター第1分院において若干の実習を行うこともあり得る。
- (2) 日本側の供与した機材は原則として中日友好病院で使用される。ただし、必要ある場合、一部は第1分院で使用されることもあり得る。また、センター開設後はこれら機材はセンターに移されるものとする。

II 中国側の教育・訓練

- (1) センター開設前から開始する教育・訓練

① 医師

医科大学卒業後の医師を対象に1987年から1989年までの間、3回（1回約6ヶ月40人計120人）を中日友好病院及びセンターにおいて行う。

② P T . O T

中日友好病院衛生学校（以下衛生学校という）に委託教育中のP T . O T学生（41人）を対象とし、1987年9月より6ヶ月間の卒前教育及びその後引き続き6ヶ月間の卒後研修を行う。

③ 看護婦

衛生学校において現在委託教育中で、1988年2月に卒業する学生（51人）に対し、1988年3月より3ヶ月の間卒後教育を行う。

- (2) センター開設後の教育・訓練

これについては、今後検討する。

III 協力計画

- (1) 専門家の派遣

センター開設前においては、中国側は上記IIの(1)の教育・訓練のために必要な専門家の派遣を要望した。

なお専門分野人数と期間については日本側に委ねる旨表明した。また、中国側より第1回の医師の研修については1987年2月開始を要望、これに対して日本側は可能な限り努力することを表明した。なお、第3回目はセンターにおいて行う。

センター開設後においては、カウンターパートの養成及びこれに必要な専門家の派遣につい

て、今後双方協議の上具体的な内容を決定することとした。

(2) 研修員の受入れ

中国側は、1986年より年間5人程度の研修員の受入れについて、日本側に要望した。受入研修員の分野については、1年目医師及びエンジニア、2年目看護婦（士）、3年目医師及びPT・OT・ST、4年目管理等、5年目医師及びPT・OT・STとすることを希望した。

日本側としては予算の範囲内で可能な限り中国側の希望に沿うよう努力するが、具体的には中国側の正式の要請に基き日本側が決定する。

(3) 機材供与

当面、教育・訓練に伴い必要とする機材は、中日友好病院、衛生学校及びセンター第1分院に設置する。

これら機材については、中日関係者において話し合いのうえ作成した案に基き、日本側の予算の範囲内で関係機関と調節し、最終決定する。

IV 中国側のとるべき措置

日本側は、プロジェクト技術協力に関し両国政府間で定められている一般的な中国側でとるべき措置以外に以下の事項を申し入れ、中国側の同意を得た。

(1) 教育訓練のための条件整備

- ① 衛生学校内及び中日友好病院内に実習場を用意すること。
- ② 日本人専門家による技術指導に必要な患者の確保
(脊髄損傷患者若干名を含む)。
- ③ 日本人専門家のためのカウンターパート、通訳及び教育、実習助手の確保。
- ④ その他、技術指導の実施に関し、日本人専門家が要請する事項に対し、可能な限り対処すること。

(2) 日本人専門家の待遇

- ① 日本人専門家及びその家族に対する適当な家具及び台所付住居施設を用意すること。
- ② 通勤を含み、公務により移動する際は、日本の技術協力により供与される車輛等の活用により支障なくこれが行えるよう配慮すること。

V 関 連 事 項

(1) プロジェクトコーディネーター

本技術協力を円滑に進めるため、日本側より長期専門家としてプロジェクトコーディネーターを配置する旨を申し入れ、本申し入れに対して中国側より了承を得た。

(2) 免責事項

日本人専門家が本プロジェクトのために行う医療行為及び医療行為の過程で発生する事故については、センターが責任を負うことを表明した。

关于中国肢体伤残康复研究中心
长期调查会谈纪要

一九八六年十月十日

关于中国肢体伤残康复研究中心 长期调查会谈纪要

根据中国政府对中国肢体伤残康复研究中心项目进行援助的要求，日本政府决定进行长期调查，国际协力团于1986年9月28日——10月11日派遣以厚生省国立肢体伤残康复中心诊疗部长二瓶隆一为团长的专家组访问了中国。

在中国有关部门的协助下，专家组对援助计划进行了调查，并同以中国残疾人福利基金会缪鸿石为团长的中方代表团，就援助的范围及内容进行了协商，交换了意见。协商结果见附件。本纪要经双方签字确认。

1986年10月10日
于北京

日本国
国际协力事业团
专家组团长
二瓶隆一
二瓶隆一

中华人民共和国
残疾人福利基金会
代表团团长
缪鸿石
缪鸿石

附件:

I. 援助原则

技术援助方面有如下原则:

(1). 在康复研究中心(以下简称中心)开院以前,在中日友好医院进行技术合作,但是,在必要情况下,也有可能将在中心第一分院进行部分实习。

(2). 日本方面提供的器材,原则上在中日友好医院使用,但是,必要时有一部分也许在第一分院使用。中心开院之后,将上述器材移到本中心。

II. 中国方面的教育训练

(1). 中心开院前开始的教育训练,

①. 医生

以医科大学毕业后的医生为对象,于1987年至1989年进行三期培训(每期约6个月,40人,共计120人),地点在中日友好医院以及在康复中心。

②. PT OT

对象为委托中日友好医院卫生学校(以下简称卫生学校)培养的PT、OT学生(41人),从1987年9月起连续进行6个月

的毕业前教育和6个月的毕业后教育。

② 护士

对象为委托卫生学校培养的,于1988年2月毕业的51名学生,从1988年3月起进行3个月的毕业后教育。

(2). 中心开院后的教育训练

有关事宜,待今后研究。

III. 合作计划

(1). 派遣专家

在中心开院以前,中国方面邀请为了实现上述II之(1)之教育训练,而必要的日本专家。在专业领域、人数以及时间方面,中方希望由日方决定。又中方希望第一批医生的培训于1987年2月开始,对此日本方面表示尽可能满足。但第三期培训希望在中心进行。

中心开院以后,为培养有关相应人员,必要的日本专家待今后双方商妥之后,再具体决定。

(2). 接受进修人员

中国方面希望从1986年起每年派遣5名左右人员到日本进修,关于专修生的专业,第一年选医生及工程人员;第二年是

护士；第三年是医生以及OT、PT、ST；第四年是管理人员等；第五年是医生以及OT、PT、ST。日本方面，努力在予算范围内尽可能达到中国方面的要求，但具体情况有待于中国方面的正式申请，由日本方面决定。

3). 器材供给

有关教育、训练人员所必需的器材，在中日友好医院、卫生学校以及中心第一分院设置。对于这些器材，根据中日双方有关人员基本达成的协议方案，日本方面和有关方面磋商后，在予算内进行调整，最后决定。

IV. 中国方面应采取的措施

除了两国政府间规定的关于技术援助项目，中国方面应当采取的一般措施以外，日本方面又提出了以下的事项，得到了中国方面的同意。

(1). 完备教育训练的条件

- ①. 在卫生学校及中日友好医院内准备实习场地。
- ②. 确保日本专家技术指导所必须的患者（包括若干名脊髓损伤患者）。

③ 为了接待日本专家，确保对等人员、翻译以及教育、会议助手。

④ 对于日本专家为了进行技术指导所要求的其他事项，要尽可能予以解决。

(2). 日本专家的待遇

① 给日本专家及其家属准备备有家具及炊具的适当居住设施。

② 在交通方面，包括上、下班在内的因公外出时，中方要予以关照。由日方技术援助所提供的汽车要供日本专家使用，以便顺利进行技术合作。

V. 有关事项

(1). 项目协调人。

为了本技术合作的顺利进行，日方提出配备专项项目的项目协调员作为长期专家一事，得到了中国方面的同意。

(2). 责任问题。

中方表明，日本专家为本项业务所进行的医疗工作及因工作引起的医疗事故，由中心负责。

JICA